

IV 消費の動向

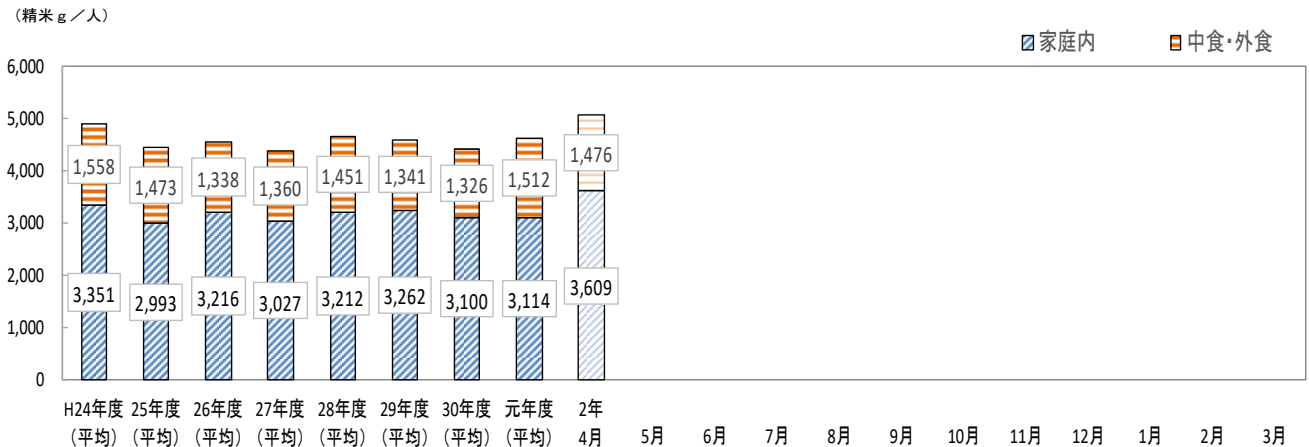
1 米の消費動向（米穀機構による調査）

調査結果の概要につきましては、米穀安定供給確保支援機構の、以下のURLから御覧いただけます。
【 <https://www.komenet.jp/> 】

○ 本調査は、調査実施機関（(株)マクロミル）のモニターの中から、本調査への協力の意向を示した消費世帯を対象としている（インターネット調査）。

- 米穀機構が公表している「米の消費動向調査」（令和2年4月分）によると、1人1ヵ月当たりの精米消費量は、前年同月比+3.3%。
- このうち、家庭内での消費量は前年同月比+11.6%、中食・外食では▲12.7%。

（1） 1人1ヵ月当たり精米消費量



(精米g/人、%)

	精米消費量(g)					内訳比率(%)					前年同月比(%)				
	合計					合計					合計				
		家庭内	中・外食	中食	外食		家庭内	中・外食	中食	外食		家庭内	中・外食	中食	外食
平成24年度	4,909	3,351	1,558	900	658	100.0	68.3	31.7	18.3	13.4	1.4	4.4	▲4.4	▲3.1	▲6.1
25年度	4,466	2,993	1,473	846	627	100.0	67.0	33.0	18.9	14.0	▲9.0	▲10.7	▲5.5	▲6.0	▲4.7
26年度	4,554	3,216	1,338	758	580	100.0	70.6	29.4	16.6	12.7	2.0	7.5	▲9.2	▲10.4	▲7.5
27年度	4,386	3,027	1,360	793	567	100.0	69.0	31.0	18.1	12.9	▲3.7	▲5.9	1.6	4.6	▲2.2
28年度	4,663	3,212	1,451	852	599	100.0	68.9	31.1	18.3	12.8	6.3	6.1	6.7	7.4	5.6
29年度	4,603	3,262	1,341	777	564	100.0	70.9	29.1	16.9	12.3	▲1.3	1.6	▲7.6	▲8.8	▲5.8
30年度	4,426	3,100	1,326	782	544	100.0	70.0	30.0	17.7	12.3	▲3.8	▲5.0	▲1.1	0.6	▲3.5
令和元年度	4,626	3,114	1,512	885	627	100.0	67.3	32.7	19.1	13.6	4.5	0.5	14.0	13.1	15.3
令和2年 4月	5,085	3,609	1,476	1,095	382	100.0	71.0	29.0	21.5	7.5	3.3	11.6	▲12.7	11.8	▲46.2

出典：米穀安定供給確保支援機構「米の消費動向調査結果」

注1：令和2年4月分の有効調査世帯数は2,321世帯。

2：平成24～令和元年度は各年4月から翌年3月までの平均値である。

3：調査対象世帯の入れ替えや補充による調査結果の補正は行っていないため、調査結果の経年比較等の際には、留意が必要である。

4：家庭内消費量については、調査当月の月初と月末の精米在庫量及び精米購入数量から把握、中食・外食の消費量については、調査当月の家庭炊飯以外で食べた米飯の数量から推計。

5：集計に際しては、地域毎に世帯人員構成比が平成22年国勢調査「世帯人員構成比」に沿うよう調整した上で推計。

6：四捨五入の関係で合計と内訳が合わない場合がある。

- ・ 精米購入時の動向について、入手経路は「スーパーマーケット」が最も多く、次いで「家族・知人などから無償で入手」、「インターネットショップ」の順となっている。
- ・ 精米購入経路別の購入単価は、「インターネットショップ」が最も高く、次いで「米穀専門店」、「生協」の順となっている※。
※購入割合が有効調査世帯数の1%に満たない精米購入経路を除いた順である。
- ・ 令和2年4月の家庭内の月末在庫数量は、7.1kgとなっている。

② 精米購入時の動向

(ア) 入手経路(複数回答)

(%)

	デパート	スーパーマーケット	ドラッグストア	ディスカウントストア	コンビニエンスストア	生協(店舗・共同購入含む)	農協(店舗・共同購入含む)	米穀専門店	産地直売所	生産者から直接購入	インターネットショップ	家族・知人などから無償で入手	その他
平成25年度	0.7	47.4	3.8	2.8	0.3	7.1	1.6	3.8	1.8	6.8	10.0	20.8	1.6
平成26年度	1.2	48.7	4.1	2.4	0.2	8.2	1.5	3.5	2.0	6.7	8.7	19.5	2.6
平成27年度	1.8	48.1	3.7	2.5	0.2	7.8	1.0	3.7	1.5	5.2	9.7	20.3	2.6
平成28年度	1.5	49.7	3.7	2.8	0.5	8.1	1.5	2.7	1.8	6.2	9.6	17.2	3.2
平成29年度	1.4	49.4	4.3	3.1	0.3	6.9	1.6	2.8	2.0	7.1	10.0	16.2	2.5
平成30年度	1.4	52.7	4.8	2.8	0.2	6.5	1.2	2.7	2.2	6.0	9.8	14.8	2.3
令和元年度	1.0	50.1	5.9	3.2	0.2	5.9	1.3	2.4	1.0	5.9	8.1	17.8	3.4
令和2年4月	0.5	52.5	5.2	4.1	0.1	6.3	1.5	2.4	0.9	4.3	10.0	13.3	5.2

注：1 平成25～令和元年度は各年4月から翌年3月までの平均値。

2 令和2年4月分の有効調査世帯数は1422世帯。

(イ) 精米購入経路別の購入単価(複数回答)

(円/kg)

	デパート	スーパーマーケット	ドラッグストア	ディスカウントストア	コンビニエンスストア	(生協・共同購入含む)	(農協・共同購入含む)	米穀専門店	産地直売所	生産者から直接購入	インターネットショップ	有効調査世帯数
令和元年度	618	399	355	323	※545	424	477	473	434	373	494	-
令和2年4月	※422	383	409	387	※506	445	385	456	※427	387	514	2,321

注：1 デパート、スーパーマーケット、生協は、実店舗の購入単価であり、インターネットを利用した購入は含まない。

2 購入単価は消費税を除く本体価格である。

3 表中の※付きの単価は、当該経路での購入割合が有効調査世帯数の1%に満たないため参考値とする。

4 令和元年度は4月から翌年3月までの平均値である。

(ウ) 家庭内の月末在庫数量

(kg/世帯、%)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	前年比
平成26年度	月末在庫数量	6.8	6.8	6.5	6.3	6.5	6.8	7.3	7.5	7.8	7.1	6.8	6.6	6.9	3.0
	平均世帯人員	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41	-
27年度	月末在庫数量	6.0	6.2	6.2	6.3	6.4	6.6	6.9	7.1	7.3	7.1	6.8	6.6	6.6	▲4.3
	平均世帯人員	2.40	2.40	2.40	2.40	2.40	2.40	2.41	2.41	2.40	2.41	2.41	2.41	2.40	-
28年度	月末在庫数量	6.5	6.4	6.2	6.2	6.2	6.2	6.7	7.0	7.7	7.5	6.7	6.6	6.7	1.5
	平均世帯人員	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41	-
29年度	月末在庫数量	6.1	6.2	5.9	6.0	6.0	6.1	6.7	6.8	7.0	6.9	6.4	6.4	6.4	▲4.5
	平均世帯人員	2.33	2.32	2.33	2.33	2.32	2.33	2.32	2.32	2.32	2.32	2.32	2.32	2.32	-
30年度	月末在庫数量	6.4	6.3	6.0	5.8	6.1	6.5	6.6	6.9	7.2	6.6	6.4	6.4	6.4	0.0
	平均世帯人員	2.32	2.32	2.32	2.33	2.33	2.33	2.32	2.33	2.32	2.32	2.32	2.32	2.32	-
令和元年度	月末在庫数量	6.0	6.2	5.9	5.7	6.0	6.2	6.2	6.5	6.6	6.3	6.3	6.5	6.2	▲3.1
	平均世帯人員	2.33	2.33	2.33	2.33	2.33	2.33	2.32	2.32	2.32	2.32	2.32	2.32	2.33	-
2年度	月末在庫数量	7.1												7.1	14.5
	平均世帯人員	2.33												2.33	-

注：1 地域ごとの世帯人員構成比が平成26～28年度はH22国勢調査、平成29～令和元年度はH27国勢調査「世帯人員構成比」に沿うようウェイトバック集計を実施した上で集計した。

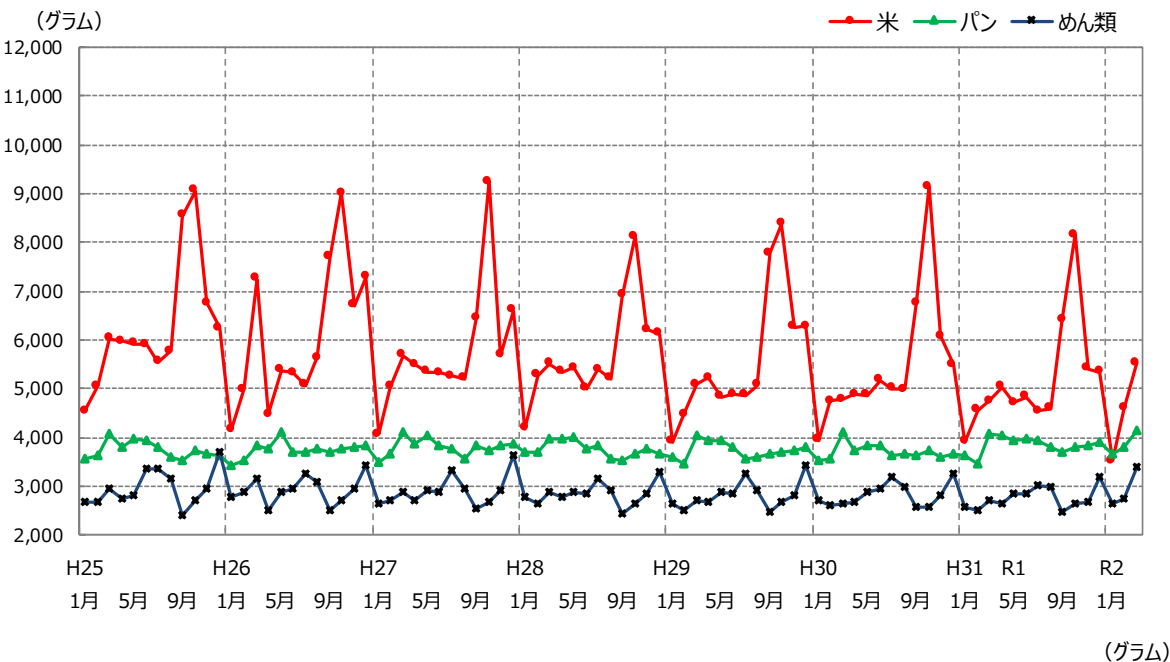
注：2 平均世帯人員は、各月の有効調査世帯の平均人員数である。

2 購入数量の推移（家計調査）

家計調査、消費者物価指数、小売物価統計の累年データについては、総務省統計局HPから御覧いただけます。【 <https://www.stat.go.jp/data/index.html> 】

- 総務省が公表している家計調査によると、令和2年3月の米の購入数量は、対前年同月比+16.9%の5.5kg、パンは+2.2%の4.2kg、めん類は+24.3%の3.4kg。

1世帯当たり1か月間の購入数量の推移



	米		パン		めん類	
	購入数量	前年（同月）比	購入数量	前年（同月）比	購入数量	前年（同月）比
平成25年	75,170	95.4%	44,927	100.3%	35,560	99.3%
26年	73,050	97.2%	44,926	100.0%	35,176	98.9%
27年	69,510	95.2%	45,676	101.7%	34,753	98.8%
28年	68,740	98.9%	45,099	98.7%	34,192	98.4%
29年	67,270	97.9%	44,840	99.4%	33,934	99.2%
30年	65,750	97.7%	44,526	99.3%	33,867	99.8%
令和元年	62,200	94.6%	46,011	103.3%	33,169	97.9%
令和2年 1月	3,520	90.0%	3,652	100.7%	2,629	102.0%
2月	4,600	100.9%	3,789	109.7%	2,751	109.5%
3月	5,540	116.9%	4,157	102.2%	3,382	124.3%

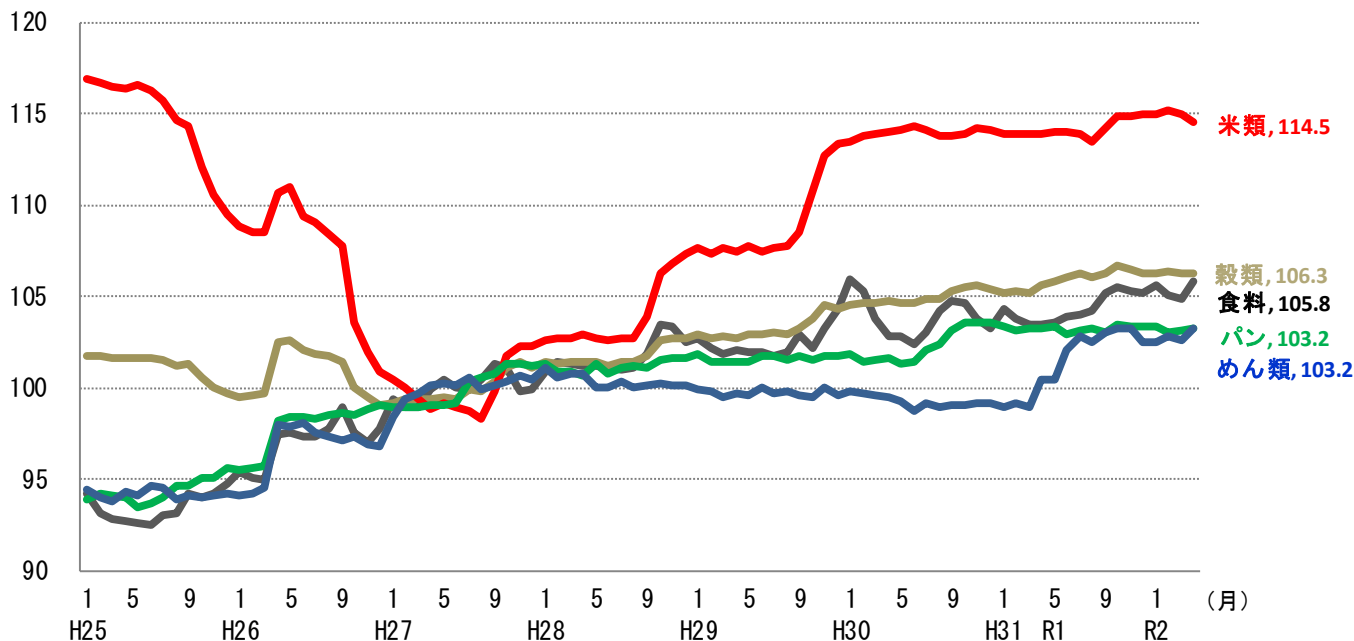
資料：総務省「家計調査」家計収支編 二人以上の世帯

注1：平成25～令和元年は年間の購入数量・対前年比、令和2年3月は月間の購入数量・対前年同月比である。

注2：米は精米ベースである。

3 消費者物価指数の推移

- 総務省が公表している消費者物価指数によると、令和2年4月の米類の指数は対前年同月比 +0.5%の114.5ポイント。



(平成27年=100、指数)

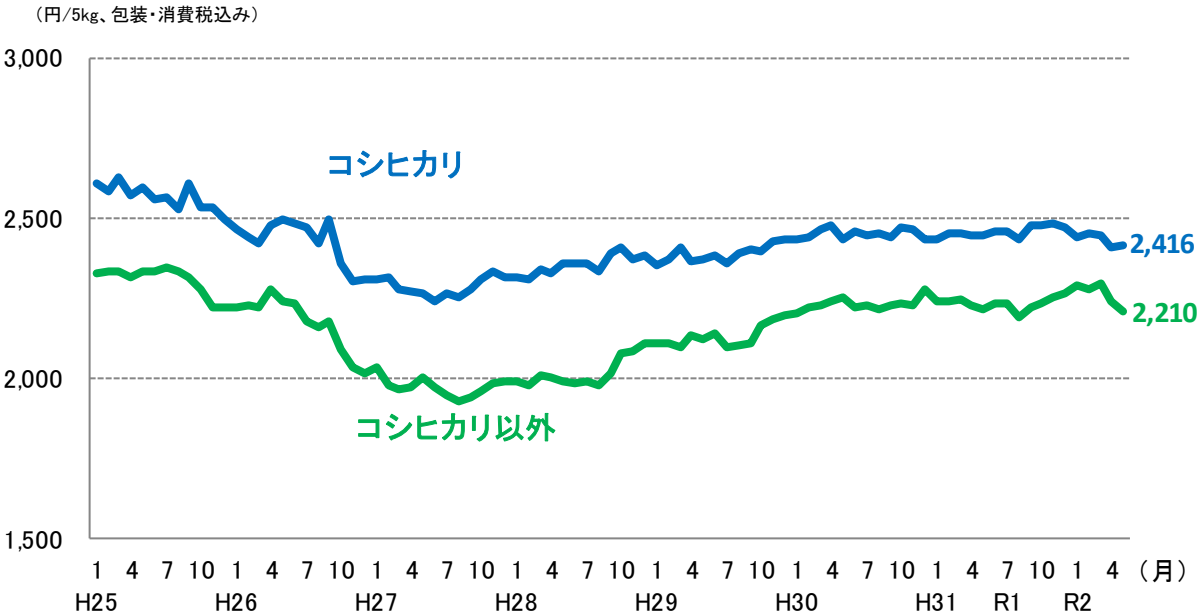
	食料		穀類		米類		うるち米		パン		めん類	
		対前年 (同月)比		対前年 (同月)比		対前年 (同月)比		対前年 (同月)比		対前年 (同月)比		対前年 (同月)比
平成25年(平均)	93.4	▲0.1%	101.2	▲0.5%	114.6	2.0%	115.7	2.1%	94.4	▲1.9%	94.2	▲1.7%
26年(平均)	97.0	3.8%	100.8	▲0.4%	107.4	▲6.3%	107.9	▲6.8%	97.8	3.6%	96.6	2.6%
27年(平均)	100.0	3.1%	100.0	▲0.8%	100.0	▲6.9%	100.0	▲7.3%	100.0	2.2%	100.0	3.5%
28年(平均)	101.7	1.7%	101.7	1.7%	103.8	3.8%	104.0	4.0%	101.2	1.2%	100.3	0.3%
29年(平均)	102.4	0.7%	103.2	1.5%	108.8	4.8%	109.2	5.1%	101.6	0.4%	99.7	▲0.6%
30年(平均)	103.9	1.4%	104.9	1.7%	114.0	4.7%	114.6	5.0%	102.3	0.7%	99.3	▲0.5%
令和元年(平均)	104.3	0.5%	105.9	0.9%	114.2	0.2%	114.9	0.2%	103.2	0.9%	101.4	2.2%
令和2年 1月	105.6	1.2%	106.2	1.0%	114.9	0.8%	115.6	0.8%	103.3	0.0%	102.5	3.6%
2月	105.1	1.2%	106.4	1.1%	115.2	1.1%	115.8	1.0%	103.0	▲0.1%	102.8	3.6%
3月	104.9	1.4%	106.3	1.0%	114.9	0.9%	115.6	0.9%	103.1	▲0.1%	102.6	3.7%
4月	105.8	2.1%	106.3	0.7%	114.5	0.5%	115.0	0.4%	103.2	0.0%	103.2	2.8%

資料：総務省「消費者物価指数」平成27年基準、品目別価格指数（全国）

- 注1：食料は、穀類以外にも、魚介類、肉類等を含んでいる。
2：穀類は、米類（うるち米、もち米）、パン、めん類、他の穀類からなる。
3：平成25年～令和元年のデータは年平均、令和2年1月～4月は月次データである。

4 小売物価統計の推移

- 総務省が公表している小売物価統計によると、令和2年5月のうるち米の小売価格（5kg当たり）は、コシヒカリで対前年同月比▲1.1%の2,416円。
- コシヒカリ以外の銘柄の平均では、対前年同月比▲0.3%の2,210円。



(円/5kg、包装・消費税込み)

年平均	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
コシヒカリ	2,567	2,428	2,285	2,355	2,388	2,451	2,457
前年比	▲0.4%	▲5.4%	▲5.9%	3.1%	1.4%	2.6%	0.2%
コシヒカリ以外	2,307	2,173	1,973	2,019	2,132	2,232	2,234
前年比	3.8%	▲5.8%	▲9.2%	2.3%	5.6%	4.7%	0.1%

月次(令和2年)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
コシヒカリ	2,439	2,455	2,443	2,407	2,416							
前年同月比	0.2%	0.1%	▲0.3%	▲1.5%	▲1.1%							
コシヒカリ以外	2,288	2,279	2,295	2,241	2,210							
前年同月比	2.1%	1.7%	2.3%	0.5%	▲0.3%							

月次(令和元年)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
コシヒカリ	2,434	2,453	2,451	2,443	2,444	2,460	2,458	2,431	2,475	2,474	2,483	2,472
前年同月比	0.0%	0.6%	▲0.6%	▲1.3%	0.5%	0.0%	0.6%	▲0.9%	1.6%	0.0%	0.7%	1.6%
コシヒカリ以外	2,241	2,242	2,244	2,229	2,216	2,233	2,233	2,191	2,223	2,233	2,252	2,267
前年同月比	1.7%	0.9%	0.7%	▲0.5%	▲1.7%	0.5%	0.2%	▲1.2%	▲0.3%	▲0.1%	1.0%	▲0.4%

資料：総務省「小売物価統計」動向編

注：東京都区部における精米価格である（特売分を除く）。

5 米穀販売事業者における販売数量及び販売価格の動向

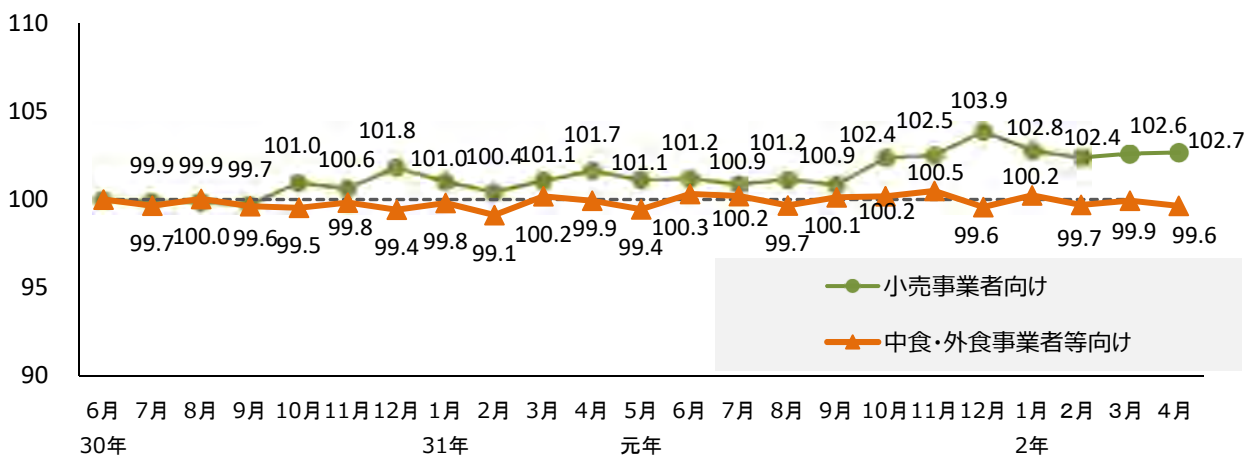
- 令和2年4月の販売数量(前年同月比)は、小売事業者向け110%、中食・外食事業者等向け75%で販売数量は94%。
- 平成30年6月を基準にした令和2年4月の販売価格の値動きは、小売事業者向け102.7、中食・外食事業者等向け99.6。
- 前年同月を基準にした令和2年4月の販売価格の値動きは、小売事業者向け100.3、中食・外食事業者等向け99.7。

1 販売数量の動向（前年同月比）

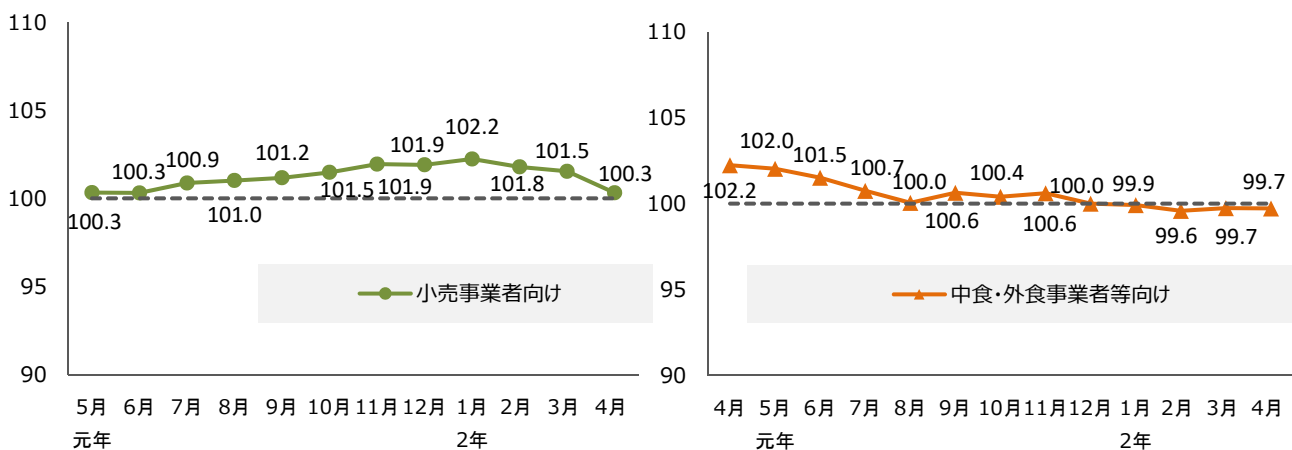
	元年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2年 1月	2月	3月	4月
小売事業者向け	94%	99%	96%	101%	97%	99%	99%	101%	110%	124%	110%
中食・外食事業者等向け	104%	100%	100%	97%	98%	95%	97%	98%	99%	89%	75%
販売数量計	99%	99%	98%	99%	97%	97%	98%	100%	105%	108%	94%

注：前月公表分までは、報告者からの対前年比の比率の割合により、整理していたが、今回公表から、販売数量（実数）と対前年の販売数量（実数）との比率としており、実数比較が可能となった元年6月分から数値を精査の上、遡及して整理。

2 販売価格の動向（30年6月を基準にした値動き）



3 販売価格の動向（前年同月の価格を基準にした値動き）



資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注1：報告対象業者は、年間玄米仕入数量50,000㌧以上の販売事業者である。

注2：上記の数値については、報告対象者が販売している精米の全体の価格・数量の動向を指数化したものであり、個別の取引や産地銘柄毎の動向を表すものではない。

注3：速報値であるため、公表後の数値修正が生じる場合がある。

6 小売価格の推移（POSデータ）

主な銘柄の月別価格・販売数量

単位：円/5kg袋販売時換算（消費税込み）、トン

	販 売 価 格															販売数量	
	31年 4月	元年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2年 1月	2月	3月	4月	前月差	前年 同月差	2年 4月	元年10月 ～2年4月
北海道 ななつぼし	2,022	2,015	2,019	1,955	1,956	1,906	1,963	1,968	1,998	1,995	2,009	2,025	2,038	+ 13	+ 16	337	2,105
北海道 ゆめびりか	2,257	2,253	2,262	2,266	2,320	2,388	2,395	2,388	2,408	2,416	2,415	2,429	2,455	+ 26	+ 198	236	1,475
北海道 きらら397	1,925	1,942	1,915	1,952	1,965	1,876	1,898	1,920	1,952	1,911	1,958	1,968	1,922	▲ 46	▲ 3	63	312
北海道 ふっくりんこ	2,224	2,218	2,209	2,216	2,209	2,212	2,145	2,188	2,180	2,188	2,212	2,209	2,214	+ 5	▲ 10	46	283
青森 つがるロマン	1,977	1,968	1,942	1,952	1,939	1,874	1,845	1,857	1,926	1,934	1,912	1,920	1,870	▲ 49	▲ 107	27	118
青森 まっしぐら	1,762	1,770	1,771	1,818	1,765	1,783	1,835	1,825	1,824	1,852	1,785	1,819	1,834	+ 15	+ 72	20	78
青森 青天の霹靂	2,198	2,199	2,204	2,216	2,146	2,205	2,222	2,250	2,291	2,302	2,324	2,334	2,327	▲ 7	+ 129	14	83
岩手 ひとめぼれ	1,926	1,918	1,907	1,935	1,912	1,894	1,995	1,987	1,990	1,969	1,982	2,011	2,003	▲ 7	+ 77	117	678
岩手 あきたこまち	1,813	1,820	1,830	1,854	1,851	1,855	1,922	1,836	1,866	1,827	1,824	1,852	1,859	+ 7	+ 46	24	137
岩手 銀河のしずく	2,080	2,108	2,038	2,029	2,022	2,205	2,035	2,026	2,009	2,015	1,981	2,087	2,078	▲ 9	▲ 2	15	77
宮城 ひとめぼれ	1,926	1,899	1,884	1,904	1,918	1,921	1,954	1,956	1,971	1,944	1,960	1,959	1,952	▲ 6	+ 26	180	976
宮城 つや姫	2,086	2,020	1,992	2,054	2,061	2,105	2,099	2,080	2,088	2,052	2,064	2,082	2,078	▲ 4	▲ 8	27	138
秋田 あきたこまち	1,965	1,978	1,959	1,935	1,955	1,981	1,987	2,002	2,003	1,986	2,031	2,057	2,048	▲ 9	+ 83	228	1,343
秋田 ひとめぼれ	1,885	1,870	1,811	1,828	1,745	1,773	1,749	1,713	1,803	1,838	1,852	1,922	1,912	▲ 10	+ 27	23	168
山形 つや姫	2,476	2,467	2,464	2,471	2,472	2,452	2,449	2,423	2,459	2,482	2,529	2,445	2,550	+ 106	+ 74	66	428
山形 はえぬき	1,936	1,952	1,921	1,927	1,905	1,980	1,754	1,942	1,917	1,910	1,943	2,002	2,002	+ 0	+ 66	45	225
山形 雪若丸	2,072	2,080	2,071	2,007	2,078	2,135	2,107	2,137	2,135	2,070	2,081	2,064	2,046	▲ 18	▲ 26	17	102
茨城 コシヒカリ	1,835	1,892	1,899	1,883	1,894	1,892	1,897	1,965	1,979	1,952	1,973	1,961	1,955	▲ 6	+ 120	22	139
茨城 あきたこまち	1,906	1,848	1,883	1,869	1,882	1,882	1,894	1,929	1,900	1,877	1,881	1,929	1,970	+ 41	+ 64	8	173
栃木 コシヒカリ	2,028	1,963	2,020	1,965	2,045	2,074	1,955	2,025	2,056	2,082	1,950	1,967	2,021	+ 55	▲ 7	29	169
栃木 なすひかり	1,869	1,901	1,891	1,891	1,887	1,917	1,933	1,949	1,919	1,858	1,959	1,963	1,945	▲ 18	+ 76	13	105
千葉 コシヒカリ	1,931	1,919	1,914	1,943	1,948	1,996	2,023	1,991	2,018	2,033	2,064	2,095	2,095	+ 1	+ 164	36	233
千葉 ふさこがね	1,772	1,741	1,683	1,700	1,821	1,871	1,778	1,769	1,791	1,754	1,768	1,809	1,815	+ 6	+ 43	24	173
千葉 ふさおとめ	1,809	1,802	1,805	1,810	1,848	1,844	1,843	1,829	1,819	1,851	1,857	1,896	1,906	+ 10	+ 97	33	238
新潟 コシヒカリ 一般	2,186	2,168	2,213	2,219	2,239	2,258	2,202	2,201	2,220	2,226	2,222	2,250	2,259	+ 9	+ 73	190	1,272
新潟 コシヒカリ 魚沼	2,771	2,763	2,778	2,791	2,769	2,802	2,791	2,772	2,698	2,750	2,825	2,835	2,828	▲ 7	+ 57	41	263
新潟 コシヒカリ 佐渡	2,305	2,308	2,306	2,295	2,280	2,298	2,232	2,218	2,300	2,278	2,312	2,259	2,357	+ 98	+ 52	15	119
新潟 こしいぶき	1,815	1,764	1,809	1,800	1,828	1,844	1,845	1,794	1,796	1,813	1,822	1,865	1,855	▲ 10	+ 40	49	346
新潟 新之助	2,396	2,398	2,415	2,427	2,415	2,406	2,477	2,501	2,488	2,422	2,493	2,507	2,496	▲ 11	+ 100	14	74
富山 コシヒカリ	2,048	2,052	2,068	2,042	2,062	2,135	2,101	2,060	2,075	2,098	2,135	2,139	2,171	+ 32	+ 123	95	668
石川 コシヒカリ	2,068	2,057	2,034	2,028	2,034	2,158	2,085	2,060	2,101	2,047	2,073	2,115	2,085	▲ 30	+ 17	90	468
石川 ゆめみづぼ	1,954	1,920	1,916	1,956	1,992	1,934	1,923	1,893	1,941	1,908	2,065	2,081	1,891	▲ 191	▲ 63	12	74
福井 コシヒカリ	2,066	2,076	1,996	2,018	2,085	2,096	2,010	2,045	2,111	2,085	2,017	2,218	2,104	▲ 114	+ 38	23	151
福井 ハナエチゼン	1,847	1,912	1,831	1,897	1,963	1,959	1,931	1,941	1,935	1,928	1,957	1,957	1,949	▲ 8	+ 102	17	107
山梨 コシヒカリ	2,312	2,269	2,256	2,313	2,329	2,305	2,293	2,320	2,398	2,299	2,336	2,298	2,342	+ 44	+ 30	19	118
長野 コシヒカリ	1,940	1,945	1,914	1,936	1,930	1,899	1,915	1,925	1,933	1,948	1,965	1,998	2,016	+ 17	+ 76	50	329
愛知 コシヒカリ	2,060	2,074	2,087	2,086	2,103	2,075	2,099	2,115	2,178	2,162	2,216	2,237	2,216	▲ 22	+ 156	12	87
三重 コシヒカリ 一般	2,019	1,982	1,936	1,953	1,894	1,996	1,979	2,022	2,066	1,926	2,050	2,036	2,050	+ 14	+ 31	46	257
三重 コシヒカリ 伊賀	2,148	2,092	2,083	2,094	2,142	2,132	2,147	2,151	2,194	2,165	2,175	2,168	2,189	+ 21	+ 41	28	174
島根 コシヒカリ	2,016	2,207	2,267	1,919	2,263	2,223	2,237	2,186	2,312	2,251	2,291	2,367	2,322	▲ 44	+ 306	8	52
岡山 コシヒカリ	2,022	1,992	1,987	2,024	1,967	2,025	2,016	1,993	2,032	2,003	2,042	2,065	2,080	+ 16	+ 58	13	71
愛媛 コシヒカリ	2,043	2,050	2,052	2,072	2,083	2,112	2,089	2,054	2,109	2,072	2,108	2,107	2,118	+ 11	+ 75	17	88
福岡 元気つくし	2,120	2,077	2,097	2,106	2,115	2,139	2,090	2,164	2,193	2,190	2,297	2,262	2,246	▲ 17	+ 126	11	109
佐賀 さがびより	1,997	1,978	1,969	1,998	1,998	2,001	1,972	2,009	2,015	1,837	1,744	1,666	3,591	+ 1,925	+ 1,594	0	23
大分 ヒノヒカリ	1,900	1,922	1,889	1,859	1,894	1,885	1,858	1,877	1,912	1,897	1,896	1,934	2,004	+ 70	+ 104	17	108
宮崎 コシヒカリ	1,237	1,181	1,167	1,674	1,944	1,854	1,728	1,557	1,302	1,245	1,290	1,300	1,390	+ 89	+ 153	3	18
宮崎 ヒノヒカリ	1,829	1,823	1,830	1,805	1,817	1,798	1,815	1,818	1,825	1,823	1,839	1,831	1,879	+ 48	+ 50	20	162
全POS取引平均価格	2,019	2,011	2,006	2,007	2,010	2,014	2,031	2,039	2,079	2,054	2,065	2,080	2,082	+ 2	+ 63		
全POS取引数量(ｔ)	3,182	3,074	3,222	3,107	3,303	3,559	2,890	2,732	2,971	2,550	3,223	3,900	3,652	▲ 248	+ 470	3,652	21,916

資料：（株）KSP-SPが提供するPOSデータに基づいて農林水産省が作成

注1：（株）KSP-SPが提供するPOSデータは、全国約1,032店舗のスーパー、生協等から購入したデータに基づくものである。

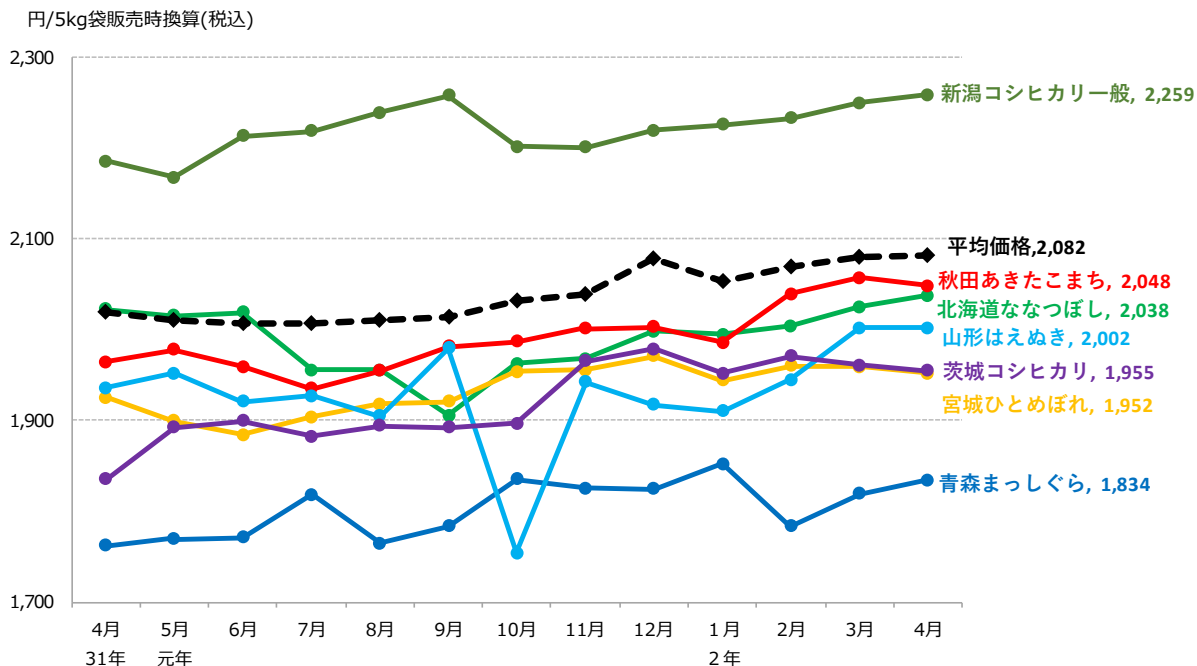
注2：POSデータは、データ提供企業から遅れて報告されるものもあるため、時点によって集計結果に若干のずれが生じることがあり、今後、修正されることもある。

注3：POSデータの提供店舗数は、変動があることに留意が必要である。

注4：全POS取引平均価格は、POSデータを把握できる 全ての精米の販売について 5 kg袋販売時に換算した上で加重平均を行った価格である。

注5：価格に含む消費税は8%である。

- 令和2年4月の小売価格(POSデータ)の平均価格(5kg当たり)は、対前月比+2円(+0.0%)、対前年同月比+63円(+3.1%)の2,082円。



資料：(株)KSP-SPが提供するPOSデータに基づいて農林水産省が作成

注1：(株)KSP-SPが提供するPOSデータは、全国約1,032店舗のスーパー、生協等から購入したデータに基づくものである。

注2：POSデータは、データ提供企業から遅れて報告されるものもあるため、時点によって集計結果に若干のずれが生じることがあり、今後、修正されることもある。

注3：POSデータの提供店舗数は、変動があることに留意が必要である。

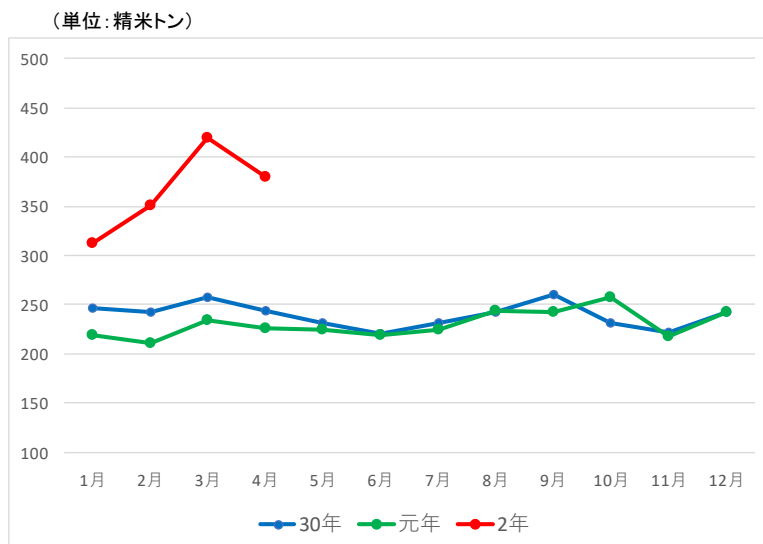
注4：全POS取引平均価格は、POSデータで把握できる全ての精米の販売について5kg袋販売時に換算した上で加重平均を行った価格である。

注5：価格に含む消費税は8%である。

【パックご飯の販売数量（精米換算）】

(単位: 精米トン、%)

	30年	元年 ①	2年 ②	対前年 同月比 ②/①
1月	246	219	313	143%
2月	243	211	351	166%
3月	257	234	420	179%
4月	244	226	380	168%
5月	232	225		
6月	221	219		
7月	231	225		
8月	243	244		
9月	260	242		
10月	232	257		
11月	222	217		
12月	242	243		



資料：(株)KSP-SPが提供するPOSデータに基づいて農林水産省が作成

注1：(株)KSP-SPが提供するPOSデータは、全国約1,032店舗のスーパー、生協等から購入したデータに基づくものである。

注2：POSデータは、データ提供企業から遅れて報告されるものもあるため、時点によって集計結果に若干のずれが生じることがあり、今後、修正されることもある。

注3：POSデータの提供店舗数は、変動があることに留意が必要である。

V 輸出入の動向

輸入米の入札情報については、農林水産省ホームページの「政策統括官」の分野別分類「米(稲)・麦・大豆」、品目別分類「輸入米麦入札関連資料」で御覧いただけます。

【 <http://www.maff.go.jp/j/seisan/boueki/nyusatu/index.html> 】

1 MA米の輸入数量（輸入先国別及び輸入方式別）

（単位：千玄米トン）

	米 国	タ イ	中 国	オーストラリア	その他	合 計	うち一般輸入	うちSBS輸入 ※
平成7年度	194	107	32	87	5	426	415	11
平成8年度	233	144	40	87	6	511	488	22
平成9年度	290	151	46	95	13	596	537	55
平成10年度	313	152	78	109	29	681	551	120
平成11年度	339	159	86	115	24	724	591	120
平成12年度	356	168	99	120	24	767	632	120
平成13年度	364	146	136	110	11	767	655	100
平成14年度	361	153	112	96	44	767	710	50
平成15年度	355	153	110	90	51	759	647	100
平成16年度	361	185	98	20	103	767	661	94
平成17年度	362	186	84	19	116	767	655	100
平成18年度	358	179	76	52	102	767	654	100
平成19年度	358	243	82	－	13	696	585	100
平成20年度	430	261	72	－	6	769	658	100
平成21年度	358	332	71	－	5	767	655	100
平成22年度	356	345	19	40	6	767	725	37
平成23年度	358	241	56	71	40	767	658	100
平成24年度	362	281	46	64	13	767	656	100
平成25年度	359	351	1	41	15	767	700	61
平成26年度	359	332	55	14	6	767	754	12
平成27年度	359	344	56	1	6	767	734	29
平成28年度	376	375	3	7	7	767	685	73
平成29年度	365	264	56	74	8	767	655	100
平成30年度	359	316	69	14	8	767	701	59
令和元年度	360	306	83	0	17	767	681	77

資料：農林水産省「米をめぐる関係資料」

※SBS輸入数量の単位は千実トン。

注：1 各年度の輸入契約数量の推移。

2 ラウンドの関係で合計と内訳が一致しないことがある。

3 千実トンと千玄米トンのため合計は一致しないことがある。

（参考）MA米以外で、枠外税率を支払って輸入されるコメの数量は、毎年0.1～0.2千トン程度

2 加工原材料用に係る政府所有MA米の見積合わせ結果 (平成31年度・令和元年度)

(単位：実トン)

販売期間	うるち	販売期間	もち
平成31年4～6月分 (長期契約)	23,199	平成31年4～令和元年7月分	2,870
4月分 (月別契約)	322	令和元年8～11月分	3,153
令和元年5月分 (月別契約)	326	令和元年12～令和2年3月分	2,259
6月分 (月別契約)	432		
7～9月分 (長期契約)	23,160		
7月分 (月別契約)	220		
8月分 (月別契約)	458		
9月分 (月別契約)	633		
10～12月分 (長期契約)	23,204		
10月分 (月別契約)	534		
11月分 (月別契約)	612		
12月分 (月別契約)	572		
令和2年1～3月分 (長期契約)	23,443		
1月分 (月別契約)	291		
2月分 (月別契約)	440		
3月分 (月別契約)	411		
小 計	98,257	小 計	8,282
合計	106,539		

資料：農林水産省「加工原材料用に係る政府所有ミニマム・アクセス米の見積合わせ結果の概要について」

3 SBS輸入米の見積合わせ結果（令和元年度）

（単位：実トン）

		アメリカ		タイ		中国		オーストラリア		その他		合計
		うるち	もち	うるち	もち	うるち	もち	うるち	もち	うるち	もち	
第1回 （令和元年9月27日）	一般米	5,252	276	40		80		260		501		6,409
	砕精米	2,200		200		100						2,500
	計	7,452	276	240		180		260		501		8,909
第2回 （令和元年10月30日）	一般米	4,944	140	761		280				941		7,066
	砕精米	1,800		700								2,500
	計	6,744	140	1,461		280				941		9,566
第3回 （令和元年11月22日）	一般米	5,023		1,132	126	420				297		6,998
	砕精米	2,200	100	200								2,500
	計	7,223	100	1,332	126	420				297		9,498
第4回 （令和元年12月20日）	一般米	2,442	340	1,344		200				230		4,556
	砕精米	2,000		300		200						2,500
	計	4,442	340	1,644		400				230		7,056
第5回 （令和2年1月22日）	一般米	4,333	360	288		100				1,058		6,139
	砕精米	2,116	100	500								2,716
	計	6,449	460	788		100				1,058		8,855
第6回 （令和2年2月7日）	一般米	3,498	1,120			100				1,831		6,549
	砕精米	2,300	200		500							3,000
	計	5,798	1,320		500	100				1,831		9,549
第7回 （令和2年2月25日）	一般米	4,856	360	392		120				589		6,317
	砕精米	2,334	200	300								2,834
	計	7,190	560	692		120				589		9,151
第8回 （令和2年3月10日）	一般米	2,589		478		240				4,912		8,219
	砕精米	4,260		160	100	220				1,000		5,740
	計	6,849		638	100	460				5,912		13,959
令和元年度計	一般米	32,937	2,596	4,435	126	1,540	0	260	0	10,359	0	52,253
	砕精米	19,210	600	2,360	600	520	0	0	0	1,000	0	24,290
	計	52,147	3,196	6,795	726	2,060	0	260	0	11,359	0	76,543
平成30年度計 （参考）	一般米	16,364	2,392	4,624	90	594	0	13,203	0	2,477	0	39,744
	砕精米	14,240	940	1,700	1,200	620	0	0	0	100	0	18,800
	計	30,604	3,332	6,324	1,290	1,214	0	13,203	0	2,577	0	58,544
平成29年度計 （参考）	一般米	45,841	2,976	3,506	90	1,580	0	27,863	0	2,007	0	83,863
	砕精米	8,966	1,000	2,012	360	660	0	2,839	0	300	0	16,137
	計	54,807	3,976	5,518	450	2,240	0	30,702	0	2,307	0	100,000
平成28年度計 （参考）	一般米	27,318	3,600	3,487	108	2,156	0	6,861	0	1,236	0	44,766
	砕精米	24,820	700	2,300	388	240	0	0	0	100	0	28,548
	計	52,138	4,300	5,787	496	2,396	0	6,861	0	1,336	0	73,314
平成27年度計 （参考）	一般米	4,251	3,458	2,762	72	76	0	1,285	0	959	0	12,863
	砕精米	10,940	1,260	2,420	1,022	660	0	0	0	150	0	16,452
	計	15,191	4,718	5,182	1,094	736	0	1,285	0	1,109	0	29,315
平成26年度計 （参考）	一般米	662	2,418	2,732	72	80	0	559	0	767	0	7,290
	砕精米	0	724	2,540	252	700	0	0	0	100	0	4,316
	計	662	3,142	5,272	324	780	0	559	0	867	0	11,606

資料：農林水産省「輸入米に係るSBSの結果の概要」

4 CPTPP・国別枠の見積合わせ結果（令和2年度）

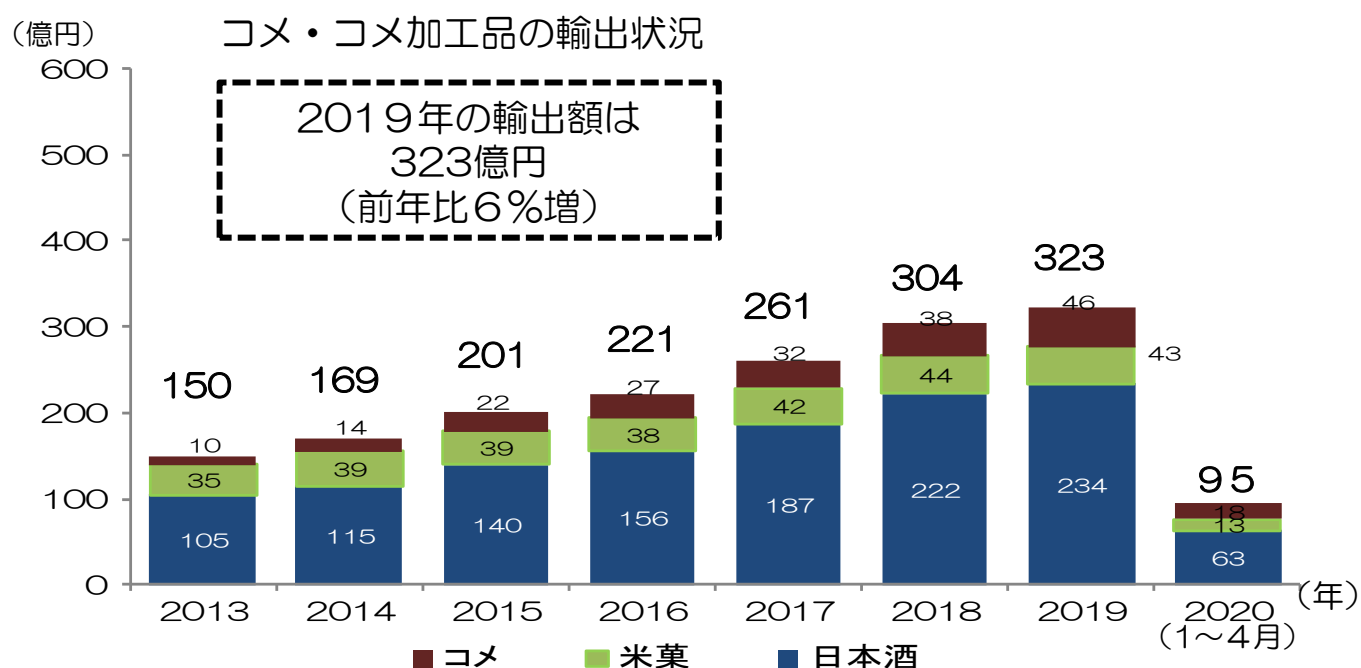
(単位:実トン)

		オーストラリア	
		うるち	もち
第1回 (令和2年5月26日)	一般米		
	加工品・調製品		
	砕精米		
	計		
令和2年度計	一般米	0	0
	加工品・調製品	0	0
	砕精米	0	0
	計	0	0
令和元年度計 (参考)	一般米	3,319	0
	加工品・調製品	0	0
	砕精米	140	0
	計	3,459	0
平成30年度計 (参考)	一般米	1,000	0
	加工品・調製品	0	0
	砕精米	120	0
	計	1,120	0

資料:農林水産省「輸入米に係るSBSの結果の概要」

5 コメ・コメ加工品の輸出量及び輸出金額について

- 2019年のコメ・コメ加工品の輸出額は323億円（前年比6%増）。
- うちコメの輸出は前年比23%増の46億円（数量では17,381トン、前年比26%増）。特に香港・シンガポール・米国・中国向けの輸出が大幅に増加。
- 2020年3月31日に閣議決定された新たな食料・農業・農村基本計画において、2030年の農林水産物・食品の輸出額目標を5兆円と設定。うちコメの輸出額は261億円が見込まれている。



コメ・コメ加工品の輸出量及び輸出金額

品 目 名		2016年	2017年	2018年	2019年	2020年1~4月		(参考) 主な輸出先国
							対前年同期比	
コメ・コメ加工品	数量(※)	24,135トン	28,340トン	31,741トン	34,851トン	11,458トン	-2%	米国 香港 中国 台湾 韓国 シンガポール
	金額	221億円	261億円	304億円	323億円	95億円	-14%	
コメ (援助米を除く)	数量	9,986トン	11,841トン	13,794トン	17,381トン	6,799トン	+30%	香港 シンガポール 米国 台湾 中国
	金額	27億円	32億円	38億円	46億円	18億円	+31%	
	数量	3,567トン	3,849トン	4,053トン	4,033トン	1,241トン	-1%	米国 台湾 香港 シンガポール サウジアラビア
	原料米換算	3,032トン	3,272トン	3,445トン	3,428トン	1,055トン	-1%	
	金額	38億円	42億円	44億円	43億円	13億円	-1%	
	数量	19,737 キロリットル	23,482 キロリットル	25,747 キロリットル	24,928 キロリットル	6,398 キロリットル	-33%	米国 中国 香港 韓国 台湾 シンガポール
日本酒 (清酒)	原料米換算	11,117トン	13,227トン	14,502トン	14,041トン	3,604トン	-33%	
	金額	156億円	187億円	222億円	234億円	63億円	-23%	

資料：財務省「貿易統計」（政府による食料援助を除く。）

注：数量1トン未満、金額20万円未満は計上されていない。

(1) 商業用の米の輸出数量及び金額の推移

2019年の商業用の米の輸出は、輸出数量が17,381トン（対前年比+26%）、輸出金額が約46億円（対前年比+23%）と、数量及び金額共に過去最高を記録。
2020年1～4月の商業用の米の輸出は輸出数量が6,799トン（対前年同期比+30%）、輸出金額が約18億円（対前年同期比+31%）。

	2015年		2016年		2017年		2018年		2019年		2020年 (1～4月)	
	数量 トン	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円
輸出合計	7,640 (+69%)	2,234 (+56%)	9,986 (+31%)	2,709 (+21%)	11,841 (+19%)	3,198 (+18%)	13,794 (+16%)	3,756 (+17%)	17,381 (+26%)	4,620 (+23%)	6,799 (+30%)	1,811 (+31%)
香港	2,519	659	3,342	842	4,128	1,016	4,690	1,160	5,436	1,372	2,534 (+42%)	664 (+49%)
シンガポール	1,850	463	2,350	539	2,861	642	3,161	694	3,879	802	1,205 (+4%)	262 (+11%)
アメリカ	322	103	812	236	986	320	1,282	404	1,980	543	779 (+26%)	211 (+24%)
台湾	753	268	910	321	943	350	1,173	394	1,262	411	587 (+83%)	172 (+49%)
中国	568	291	375	163	298	97	524	211	1,007	363	291 (+10%)	91 (-8%)
オーストラリア	273	84	357	109	476	145	635	197	770	233	379 (+55%)	112 (+51%)
タイ	208	37	395	71	192	51	320	81	578	145	164 (+18%)	43 (+25%)
イギリス	189	60	326	98	695	191	422	121	450	131	210 (+23%)	59 (+24%)
ベトナム	142	15	74	16	101	33	118	37	213	65	20 (-49%)	5 (-55%)
ロシア	30	10	74	25	78	31	120	43	174	64	49 (+208%)	19 (+134%)
マレーシア	124	41	167	45	259	62	221	51	234	59	78 (+7%)	18 (-1%)
モンゴル	134	24	198	33	203	32	336	56	315	53	155 (+65%)	26 (+66%)
ドイツ	91	29	90	32	62	26	92	36	140	52	54 (+54%)	22 (+53%)
カナダ	85	23	96	29	92	28	138	43	158	51	76 (+81%)	23 (+68%)
フランス	33	14	39	16	61	27	78	32	93	40	28 (-18%)	14 (+0%)
フィンランド	1	0	1	1	2	1	47	11	183	40	75 (+142%)	15 (+131%)
オランダ	53	14	96	23	105	24	112	30	102	30	18 (-54%)	7 (-27%)
マカオ	30	12	39	17	38	18	65	27	62	26	11 (-42%)	5 (-39%)
インドネシア	80	17	97	30	72	26	1	2	90	25	— —	— —
アラブ首長国連邦	18	7	22	9	18	9	37	17	55	23	10 (-52%)	6 (-37%)
その他	137	62	126	54	171	70	222	110	200	91	76	37

(参考)EU ※	397	135	574	180	943	283	800	253	1,050	326	225 (-37%)	76 (-29%)
----------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-------	-----	---------------	--------------

資料：財務省「貿易統計」（政府による食糧援助を除く。）

注1：（ ）内は対前年同期増減率である。

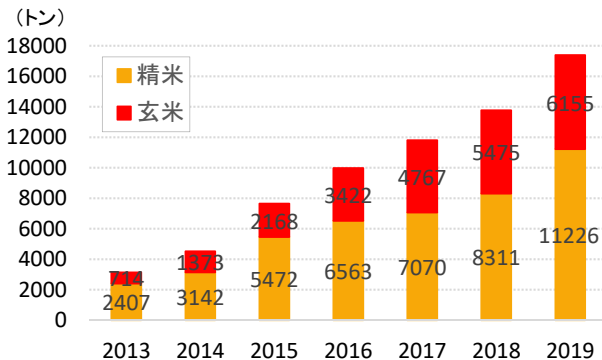
注2：数量1トン未満、金額20万円未満は計上されていない。

※EUは2020年2月以降の統計からイギリス分が除かれている。

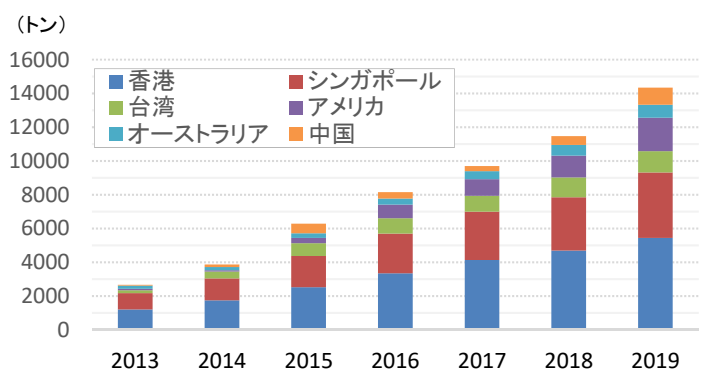
(2) 2019年の主な増加要因

- 全体として、日本食レストラン、寿司屋、おにぎり屋といった、日本産米を取り扱う
外食・中食店向けの需要が好調。
- 香港、シンガポール、米国等においては、日本産米を玄米で輸出し、現地で精米して
販売するビジネスが引き続き好調。
- 中国においては、日本食レストラン・現地系小売店の需要及びE Cサイト、中秋節・
春節ギフト用の伸びにより、前年より著しく増加。

① 商業用の米の玄米・精米別輸出量の推移



② 商業用の米の主な国別輸出量の推移



香港 📈 5,436トン（前年比+16%） 1,372百万円（前年比+18%）

1人当たりGDPが高く、高所得層を中心に安定した需要がある。また現地系も含めて日本食レストランチェーン向け等に安定的に輸出が増加している。更に、現地系スーパー等での販売や日本産米を用いたおにぎり屋の店舗数拡大等により、ミドルレンジ層の需要が広がっている。

シンガポール 📈 3,879トン（前年比+23%） 802百万円（前年比+15%）

1人当たりGDPが高く、高所得層を中心に安定した需要がある。高級店だけでなく、チェーン店の日本食レストラン等向け需要が増加している。玄米で輸出し現地で精米して販売するビジネスの伸びが顕著で、2015年に玄米輸出が精米輸出を上回り、2019年は玄米輸出の割合が6割以上を占める。

アメリカ 📈 1,980トン（前年比+54%） 543百万円（前年比+34%）

米国産米の価格が上昇、日本産米との価格差が縮まったことにより、日系スーパー及び高級日本食レストランを中心に取り扱い店舗が増加。日本産米の輸出は西海岸が中心であったが、近年は健康志向の高所得者層向けに東海岸への輸出も増加。

中国 📈 1,007トン（前年比+92%） 363百万円（前年比+72%）

日本食レストランでの取扱増加に加え、小売では日本産米アンテナショップの出店や現地系小売店での取扱が増加。また、主要販売経路であるE Cサイトでの販売が好調なことや、高級品として中秋節・春節向けギフト用の伸びが著しいこと等が寄与。展示会にて日本産米をPRしたことや、SNSを使用した情報発信も輸出増加に寄与。

ロシア 📈 174トン（前年比+45%） 64百万円（前年比+50%）

大手スーパーだけでなく、モスクワ市内の日本食レストランにも日本産米を導入される動きがある。

フィンランド 📈 183トン（前年比+289%） 40百万円（前年比+263%）

大手スーパーの持ち帰り寿司に日本産米が導入。

(3) 米菓の輸出数量及び金額の推移

2019年の米菓の輸出は、輸出数量が4,033トン（対前年比±0%）、輸出金額が約43億円（対前年比-3%）と、数量及び金額共に前年から減少。

2020年1～4月の米菓の輸出は、輸出数量が1,241トン（対前年同期比-1%）、輸出金額が約13億円（対前年同期比-1%）。

	2015年		2016年		2017年		2018年		2019年		2020年 (1～4月)	
	数量 トン	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円
輸出合計	3,679 (-8%)	3,869 (-2%)	3,567 (-3%)	3,808 (-2%)	3,849 (+8%)	4,186 (+10%)	4,053 (+5%)	4,425 (+6%)	4,033 (-0%)	4,306 (-3%)	1,241 (-1%)	1,309 (-1%)
アメリカ	797	794	897	878	1,067	1,062	1,112	1,134	1,100	1,122	359 (+3%)	362 (+3%)
台湾	895	921	868	909	731	758	830	878	854	894	240 (+19%)	256 (+16%)
香港	664	826	578	725	520	660	629	744	603	724	173 (-13%)	201 (-10%)
シンガポール	239	264	202	250	200	269	208	268	209	243	59 (+0%)	68 (-6%)
サウジアラビア	242	146	122	69	170	98	279	176	258	161	119 (-17%)	77 (-11%)
中国	78	86	52	55	62	84	61	123	87	160	30 (+55%)	59 (+63%)
韓国	98	146	161	230	326	489	229	338	119	156	13 (-78%)	15 (-81%)
ベトナム	25	33	50	51	42	76	55	112	75	155	27 (+48%)	55 (+32%)
オーストラリア	159	143	160	139	173	144	121	106	127	111	46 (+8%)	37 (+0%)
タイ	45	68	37	53	40	57	44	60	62	83	22 (-8%)	28 (-8%)
オランダ	126	111	113	106	127	111	81	87	58	61	8 (-82%)	10 (-59%)
カナダ	27	32	25	28	31	37	31	37	35	42	12 (+8%)	15 (+15%)
マレーシア	14	17	26	29	25	31	25	29	39	41	14 (+140%)	15 (+195%)
ブラジル	40	36	40	35	43	41	37	38	40	41	11 (-7%)	11 (-6%)
ブルガリア	49	14	38	9	98	27	103	31	149	40	42 (+85%)	12 (+123%)
イギリス	24	28	23	29	21	26	18	22	21	32	6 (-21%)	10 (-1%)
フィリピン	9	11	21	24	19	19	23	22	27	27	9 (+13%)	9 (+12%)
北マリアナ諸島	19	27	17	22	22	28	20	25	19	25	6 (-21%)	8 (-24%)
グアム	19	23	22	24	16	21	19	23	19	24	5 (-28%)	7 (-22%)
アラブ首長国連邦	21	33	21	32	20	30	19	28	16	23	5 (-23%)	7 (-21%)
その他	90	110	96	109	95	119	112	144	117	142	37	48

(参考)EU ※	235	200	223	193	277	206	240	189	267	183	66 (+1%)	43 (-26%)
----------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-------------	--------------

資料：財務省「貿易統計」

注：（ ）内は対前年同期増減率である。

※EUは2020年2月以降の統計からイギリス分が除かれている。

(4) 日本酒(清酒)の輸出数量及び金額の推移

2019年の日本酒の輸出は輸出数量が24,928キロリットル（対前年比－3％）、輸出金額が約23億円（対前年比＋5％）と、数量は減少したものの、金額は過去最高を記録。2020年1～4月の日本酒の輸出は輸出数量が6,398キロリットル（対前年同期比－33％）、輸出金額が約63億円（対前年同期比－23％）。

	2015年		2016年		2017年		2018年		2019年		2020年 (1～4月)	
	数量 キロリットル	金額 百万円	数量 キロリットル	金額 百万円	数量 キロリットル	金額 百万円	数量 キロリットル	金額 百万円	数量 キロリットル	金額 百万円	数量 キロリットル	金額 百万円
輸出合計	18,180 (+11%)	14,011 (+22%)	19,737 (+9%)	15,581 (+11%)	23,482 (+19%)	18,679 (+20%)	25,747 (+10%)	22,232 (+19%)	24,928 (-3%)	23,412 (+5%)	6,398 (-33%)	6,340 (-23%)
アメリカ	4,780	4,997	5,108	5,196	5,780	6,039	5,952	6,313	6,452	6,757	2,071 (-7%)	2,133 (-8%)
中国	1,576	1,172	1,910	1,449	3,341	2,660	4,146	3,587	5,145	5,001	1,022 (-46%)	1,069 (-40%)
香港	1,745	2,282	1,877	2,630	1,807	2,799	2,097	3,774	1,926	3,943	624 (-8%)	1,195 (-7%)
韓国	3,367	1,364	3,695	1,562	4,798	1,864	5,351	2,212	2,912	1,360	267 (-86%)	199 (-75%)
台湾	2,112	890	2,096	931	1,985	948	2,238	1,351	2,246	1,359	632 (-20%)	397 (-11%)
シンガポール	437	526	509	601	530	691	610	837	609	857	154 (-22%)	224 (-17%)
カナダ	553	345	576	381	711	486	684	529	715	548	208 (-8%)	157 (-1%)
オーストラリア	358	310	409	362	444	396	502	446	483	439	137 (-15%)	136 (-8%)
ベトナム	339	248	390	287	376	267	462	440	437	376	74 (-37%)	52 (-53%)
イギリス	252	260	317	323	388	348	298	324	352	373	85 (-35%)	94 (-25%)
フランス	151	140	169	196	266	267	274	276	270	285	76 (-14%)	72 (-23%)
タイ	503	230	461	240	472	252	604	300	627	276	185 (-24%)	77 (-34%)
ドイツ	401	162	388	179	368	167	367	203	477	242	179 (+9%)	94 (+1%)
マレーシア	213	181	223	201	289	265	283	244	253	242	71 (-1%)	52 (-31%)
マカオ	21	61	25	79	34	150	52	207	39	156	8 (-50%)	19 (-67%)
オランダ	205	130	183	108	276	144	223	161	247	142	103 (+5%)	66 (+56%)
イタリア	249	111	322	114	386	139	312	130	339	129	127 (+33%)	46 (+14%)
ブラジル	184	88	184	93	219	109	207	93	248	119	80 (+5%)	41 (+19%)
スペイン	70	43	82	57	154	110	153	98	130	75	37 (-27%)	26 (-9%)
メキシコ	35	31	49	52	50	48	67	63	67	74	18 (-18%)	14 (-50%)
その他	629	441	767	540	808	529	864	642	951	661	243	178

(参考)EU ※	1,475	961	1,605	1,085	2,009	1,311	1,809	1,334	2,023	1,421	609 (-15%)	380 (-23%)
----------	-------	-----	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	---------------	---------------

資料：財務省「貿易統計」

注1：（ ）内は対前年同期増減率である。

注2：数量1キロリットル未満、金額20万円未満は計上されていない。

※EUは2020年2月以降の統計からイギリス分が除かれている。

(5) 包装米飯(パックご飯)等の輸出数量及び金額の推移

2019年の包装米飯等の輸出は輸出数量が1,018トン（対前年比+10%）、輸出金額が約5億円（対前年比+8%）と、数量及び金額共に過去最高を記録。
2020年1～4月の包装米飯等の輸出は輸出数量が356トン（対前年同期比+4%）、輸出金額が約2億円（対前年同期比+17%）。

	2017年		2018年		2019年		2020年 (1～4月)	
	数量 トン	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円
輸出合計	658	344	923 (+40%)	473 (+38%)	1,018 (+10%)	513 (+8%)	356 (+4%)	200 (+17%)
アメリカ	338	132	407	159	442	167	127 (+10%)	48 (+8%)
ベトナム	69	54	92	73	82	79	30 (+43%)	33 (+41%)
香港	35	25	79	51	130	77	62 (+38%)	40 (+58%)
台湾	33	28	58	36	105	56	51 (+100%)	29 (+120%)
中国	8	6	20	14	96	42	29 (-60%)	20 (-33%)
タイ	29	14	40	17	63	27	23 (-2%)	10 (+8%)
シンガポール	21	19	31	24	21	17	10 (+21%)	5 (-26%)
韓国	67	33	149	72	31	17	2 (-87%)	1 (-84%)
イギリス	8	4	10	4	9	4	6 (+139%)	3 (+189%)
フィリピン	1	0	1	0	4	4	1 (+72%)	1 (+52%)
インドネシア	6	4	4	3	5	4	5 (+141%)	3 (+96%)
カナダ	1	0	5	4	6	3	0 (-79%)	0 (-85%)
オランダ	2	1	5	3	4	3	1 (+5%)	1 (+4%)
マカオ	0	0	0	0	3	3	0 -	0 -
メキシコ	6	3	5	3	5	3	1 (-27%)	1 (-18%)
オーストラリア	19	12	1	1	3	2	1 -	1 -
フランス	1	1	3	2	3	2	0 (-79%)	0 (-80%)
ドイツ	0	1	—	—	0	1	0 -	0 -
カンボジア	4	3	1	1	2	1	— -	— -
マレーシア	—	—	—	—	1	1	1 -	1 -
その他	12	4	12	5	2	2	3	1

(参考)EU ※	11	7	18	9	17	11	7 (+11%)	3 (-17%)
----------	----	---	----	---	----	----	-------------	-------------

資料：財務省「貿易統計」

注1：()内は対前年同期増減率である。

注2：包装米飯、その他加工米飯のほか、加熱またはその他の調製をした調製食料品のうち米のものを集計。
(2017年1月から、加工米飯等が単独のコードとして独立。)

6 コメ・コメ加工品の輸出をめぐる状況と対応方向について

輸出拡大に向けた対応方向

コメ・コメ関連食品の輸出拡大のため、精米だけでなく、包装米飯・日本酒・米菓も含めたコメ加工品の輸出に力を入れることとしている。

【コメ（包装米飯含む）】

現地での精米の取組や炊飯ロボットと合わせた外食への販売など、日本米のプレゼンスを高める取組を推進。

★重点国

新興市場：台湾、豪州、EU、ロシア、中国、米国等

安定市場：香港、シンガポール

〈主な取組（令和元年度）〉

○米国のホテルレストランや飲食店オーナー、ディストリビューター等を招聘し、産地視察や輸出業者とのビジネスマッチングを実施。

【米菓】

相手国のニーズに合った商品の開発、手軽なスナックとしてのプロモーション強化。

★重点国

新興市場：中東、中国、EU

安定市場：台湾、香港、シンガポール、米国

〈主な取組（令和元年度）〉

○北米で開催される展示会への出展及び現地小売店と連携したプロモーション・テスト販売を実施。

【日本酒】

発信力の高い都市や重点市場でのイベント・事業を実施するほか、セミナー等を通じて、日本酒の良さについて普及。日本酒の生産増に対応した酒造好適米の増産が可能となるよう措置。

★重点国

新興市場：EU、台湾、中国、ブラジル、ロシア、韓国

安定市場：米国、香港

〈主な取組（令和元年度）〉

○中国・北京において、一般消費者による日本酒の品評会（Sake-China）を開催。

輸出拡大に向けた取組

コメ・コメ関連食品の輸出拡大のため、他の品目に先がけて、オールジャパンでコメ・コメ関連食品の輸出を促進する全国団体（全日本コメ・コメ関連食品輸出促進協議会）を平成26年11月27日に立ち上げ、統一ロゴマークの開発・発表、海外でのPRイベント等を開催。

〈日本産米輸出の統一ロゴマーク〉



THIS IS
JAPAN QUALITY
日本のおいしい米。



VI 主食用米以外の情報

1 加工用米及び新規需要米等の生産状況

(1) 加工用米の生産量

(単位:トン)

			合計	(参 考)	
	うるち米	もち米		全国流通	地域流通
平成17年産	123,996	4,738	128,734	127,160	1,574
18年産	140,596	7,996	148,592	146,529	2,064
19年産	152,145	10,659	162,804	160,670	2,134
20年産	138,895	10,154	149,048	142,803	6,246
21年産	134,389	6,779	141,168	122,771	18,397
22年産	190,883	21,945	212,829	134,958	77,870
23年産	122,699	31,856	154,555	46,087	108,468
24年産	148,695	32,190	180,885	65,821	115,064
25年産	178,411	29,471	207,882	82,534	125,348
26年産	232,315	34,053	266,368	110,914	155,455
27年産	205,448	47,739	253,186	95,747	160,771
28年産	219,454	58,943	278,397	99,972	178,367
29年産	215,531	63,532	279,063	100,249	183,755
30年産	221,580	52,611	274,191	117,617	165,185
令和 元年産	206,393	50,146	256,540	100,798	155,741

資料：農林水産省「加工用米生産量」
注：1 「需要に応じた米の生産・販売の推進に関する要領」の規定により報告された生産集出荷数量。ただし、元年産は計画数量。
注：2 参考の全国流通は、取組主体が全国生産出荷団体であるもの。地域流通は、取組主体が都道府県出荷団体、認定方針作成者及び農業者であるものの合計。
注：3 参考の27年産以降は、認定計画ベースの値。このため、合計（実績値）と一致しない。
注：4 ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

(2) 新規需要米等の用途別作付・生産状況の推移

(単位:トン、ha)

	新規需要米		米粉用米		飼料用米		WCS用稲 (稲免酢組 飼料用稲)	新市場開拓用米 (輸出用米等)		酒造用米		バイオエタノール 用米		その他 (わら専用稲・ 青刈り用稲)	
	合 計														
	面 積	生産量	面 積	生産量	面 積	生産量	面 積	面 積	生産量	面 積	生産量	面 積	生産量	面 積	生産量
20年産	12,314	12,386	108	566	1,410	8,020	9,089	74	391	—	—	303	2,426	1,330	982
21年産	18,142	40,654	2,401	13,041	4,123	23,264	10,203	164	926	—	—	295	2,314	956	1,108
22年産	37,072	114,851	4,957	27,796	14,883	81,237	15,939	388	2,184	—	—	397	2,940	508	694
23年産	65,569	228,820	7,324	40,311	33,955	183,033	23,086	287	1,626	—	—	415	2,998	501	852
24年産	68,091	224,127	6,437	34,521	34,525	183,431	25,672	454	2,524	—	—	450	2,793	553	857
25年産	53,744	142,499	3,965	21,071	21,802	115,350	26,600	507	2,825	—	—	414	2,594	457	659
26年産	71,073	210,540	3,401	18,161	33,881	178,486	30,929	1,092	6,092	859	4,354	384	2,373	527	1,074
27年産	125,454	459,596	4,245	22,925	79,766	421,077	38,226	1,547	8,482	1,387	7,096	—	—	283	15
28年産	139,028	515,200	3,428	18,454	91,169	481,468	41,366	1,437	7,950	1,420	7,309	—	—	207	19
29年産	142,738	526,461	5,307	28,331	91,510	483,325	42,893	1,328	7,349	1,448	7,424	—	—	252	31
30年産	131,048	468,593	5,295	28,065	79,535	420,667	42,545	3,578	19,862	—	—	—	—	96	—
元年産	124,477	433,907	5,306	27,975	72,509	383,443	42,450	4,097	22,488	—	—	—	—	114	—

資料：農林水産省「新規需要米等の用途別作付・生産状況の推移（平成20年産～令和元年産）」
注1：平成20・21年産の生産量は取組計画認定ベース。
注2：令和元年産は令和元年10月15日現在の値。
注3：「WCS用稲」及び「その他」のうち、わら専用、青刈り用稲については子実を採らない用途であるため生産量を取りまとめていない。
注4：「酒造用米」は、「需要に応じた米の生産・販売の推進に関する要領」(以下「要領」)に基づき生産数量目標の枠外で生産された玄米であり、平成30年産以降は取りまとめていない。
注5：平成30年産以降の「バイオエタノール用米」は、要領の改正により「新市場開拓用米」に含まれている。
注6：「-」は、事実がない又は認定及び取りまとめを行っていないことを表す。また、ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

(3) 令和元年産 都道府県別の生産状況

(単位:トン)

産 地	加工用米			新規需要米				政府備蓄米	合計
		うるち米	もち米		飼料用米	新市場開拓用米	米粉用米		
全国	256,540	206,393	50,146	433,907	383,443	22,488	27,975	185,314	875,760
北海道	27,434	19,128	8,306	14,631	11,069	3,296	267	2,162	44,227
青 森	7,176	6,710	466	28,578	27,777	767	33	26,544	62,297
岩 手	7,103	5,529	1,574	21,077	19,789	962	327	3,478	31,659
宮 城	4,506	3,826	679	28,705	25,878	2,443	383	11,600	44,811
秋 田	48,861	31,010	17,851	12,552	8,931	1,433	2,188	21,572	82,985
山 形	22,264	20,900	1,364	22,426	20,654	1,015	757	21,291	65,981
福 島	2,478	2,444	34	24,197	23,819	367	11	26,601	53,276
茨 城	6,809	6,670	140	42,630	40,417	2,124	89	700	50,139
栃 木	11,397	11,383	14	48,815	45,021	289	3,506	7,487	67,700
群 馬	7,367	7,367		6,665	4,936	68	1,661	30	14,062
埼 玉	1,222	1,217	5	9,905	6,043	145	3,718	220	11,347
千 葉	8,480	4,830	3,650	21,847	21,595	75	177	1,580	31,907
東 京				0			0		0
神奈川				55	52		3		55
新 潟	31,188	21,556	9,632	24,069	12,016	4,274	7,779	25,089	80,346
富 山	6,757	5,584	1,173	9,040	7,057	1,510	473	12,197	27,994
石 川	2,907	2,502	405	3,859	2,915	285	660	7,325	14,092
福 井	2,850	2,555	295	7,273	6,020	835	418	4,050	14,173
山 梨	366	366		124	84		40		491
長 野	4,594	4,273	322	2,060	1,488	425	146	1,426	8,081
岐 阜	4,394	4,393	1	11,510	11,015	365	130	435	16,340
静 岡	666	666		5,906	5,830	7	69	20	6,592
愛 知	3,416	3,292	124	6,846	6,385	104	358	822	11,084
三 重	1,056	1,001	54	8,843	8,034	333	477	248	10,147
滋 賀	5,064	4,679	385	5,955	4,934	874	147	1,318	12,337
京 都	2,612	2,604	8	623	495	93	35		3,236
大 阪	2	2		56	31		25		58
兵 庫	3,563	3,358	205	1,696	1,559	16	121		5,259
奈 良	102	102		288	157		131		390
和歌山				14	12		2		14
鳥 取	99	99		3,574	3,572		2	400	4,073
島 根	1,571	1,468	103	4,187	4,122	13	52	130	5,888
岡 山	2,008	1,921	87	6,132	5,679	18	435	977	9,117
広 島	1,873	1,833	41	2,352	1,761		591		4,225
山 口	4,714	4,637	77	4,555	4,477	3	74		9,269
徳 島	81	81		2,395	2,218	112	65	1,116	3,593
香 川	221	221		663	603	11	49		884
愛 媛	206	206		1,437	1,417		20		1,643
高 知	316	316		3,958	3,893		65	10	4,284
福 岡	1,115	927	188	10,645	9,565	33	1,046	264	12,024
佐 賀	2,018	248	1,770	2,951	2,850	28	74	220	5,189
長 崎	47	47		650	620		30	10	707
熊 本	3,763	2,637	1,125	7,349	6,111	82	1,156	247	11,359
大 分	672	672		6,995	6,946		49	94	7,760
宮 崎	7,390	7,390		2,281	2,102	84	95		9,671
鹿児島	5,792	5,724	68	3,536	3,497		40		9,328
沖 縄	19	19							19

資料： 農林水産省「令和元年産加工用米の都道府県別の取組計画認定状況」（確定値）、「令和元年産新規需要米の都道府県別の取組計画用認定状況」（確定値）、「国内産政府備蓄米の買入入札の結果」（令和元年産）

注：1 政府備蓄米の合計は、買入対象米穀の産地の指定無し分5,651トンを含んでいる。

注：2 ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

2 米加工品の状況

(1) 主な米加工品の生産状況

(トン)

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年 (1～3月)	対前年同期比
加工米飯	349,424	346,708	373,142	390,170	398,750	104,431	109%
レトルト米飯	30,685	27,856	27,807	28,163	27,474	8,260	143%
無菌包装米飯	136,886	145,326	161,068	170,218	182,797	49,027	113%
冷凍米飯	171,501	163,017	174,025	181,559	178,068	44,422	101%
チルド米飯	4,765	4,916	4,832	4,845	4,520	1,030	94%
缶詰米飯	1,094	543	526	553	526	129	72%
乾燥米飯	4,493	5,050	4,884	4,832	5,365	1,563	96%
米 菓	220,350	217,687	222,868	221,481	221,796	55,525	100%
あられ	94,995	92,310	92,200	93,504	92,259	23,204	102%
せんべい	125,355	125,377	130,668	127,977	129,537	32,321	100%
味 噌	461,652	476,057	482,045	478,068	481,574	115,152	100%
米みそ	393,554	408,695	413,492	408,093	412,038	98,248	100%
麦みそ	18,060	18,574	17,399	16,166	15,555	3,917	107%
豆みそ	23,730	23,113	24,869	25,326	26,031	5,870	95%
調合みそ	26,308	25,675	26,285	28,483	27,950	7,117	99%
米穀粉	94,651	92,693	94,860	93,956	91,179	22,951	100%
上新粉	46,260	46,377	47,257	45,643	43,345	10,509	96%
もち粉	11,583	10,755	9,592	9,663	9,406	2,510	112%
白玉粉	4,974	4,992	5,246	4,821	4,742	1,116	102%
寒梅粉	1,468	1,606	1,535	1,534	1,560	390	98%
らくがん粉・みじん粉	1,007	971	945	984	1,120	283	112%
だんご粉	962	1,543	1,166	1,310	1,159	224	99%
菓子種	2,448	1,756	2,419	2,506	2,508	842	127%
新規米粉	25,949	24,693	26,700	27,495	27,339	7,077	101%
包装もち	58,950	63,096	58,653	59,536	60,894	9,101	100%

資料： 食品産業動態調査（農林水産省）

(2) 30米穀年度における加工原材料用米穀の使用状況（推計）

- 清酒、米菓、米穀粉などの原料として使用される米穀の平成30米穀年度における使用量は、焼酎、包装もちの出荷量の減少等により、前年から微減の約96万トン（推計）。
- 種類別には、うるち米が約77万トン、もち米が約19万トン。制度別には、主食用米、加工用米及び特定米穀などの国産米が約7割。残りの約3割はMA米及び輸入米粉調製品の外国産米。
- 米菓を中心に特定米穀及び輸入米粉調製品の使用量が増加。

<うるち米>

（単位：万玄米トン）

制度 用途	主食用米	加工用米	新規需要米 (米粉用米)	特定米穀	MA米	輸入米粉調製品	うるち米計
清酒用	11 (9)	9		4			24 (9)
米菓用	1	1		5	5	2	13
加工米飯用 (無菌包装米飯除く)	5	6					11
味噌用		1		2	7		10
焼酎用 (泡盛含む)		2		3	2		7
米穀粉用		1	3	1	2	1	8
その他用	1	2		1	1		4
合計	18	21	3	16	16	3	77

<もち米>

（単位：万玄米トン）

制度 用途	主食用米	加工用米	新規需要米 (米粉用米)	特定米穀	MA米	輸入米粉調製品	もち米計
包装もち用	2	3				1	7
米菓用	1	2		1	1	1	6
米穀粉用	1	1				1	3
加工米飯用 (無菌包装米飯除く)	1						1
その他用						1	2
合計	6	6		1	1	5	19

注1： 清酒用の（ ）書きは、酒造好適米で内数。

2： 加工米飯用は、レトルト米飯用、冷凍米飯用などとして使用される原料米の使用量であり、無菌包装米飯用として使用される原料米約9万トンを含んでいない。

3： 焼酎は単式蒸留しょうちゅう（穀類又はいも類、これらの麴等及び水を原料として発酵させたアルコール含有物を単式蒸留機により蒸留したアルコール度数が45度以下のもの（酒税法第3条第10号））であり、泡盛用として使用される原料米を含んでいる。

4： その他用には、玄米茶用、みりん用、朝食シリアル用などがある。

5： 特定米穀とは、水稲収穫量調査で使用するふるい目1.7mmと農家が出荷の際に使用する1.75～1.9mmの間の「ふるい下米」と、1.7mm未満の小さな粒の米（一般的に「くず米」と呼ばれているもの）の総称。

6： ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

【推計根拠】

1 用途別の原料米使用量合計は、加工団体等からの聞き取りのほか、以下のデータにより推計。

清酒用・・・「清酒の製造状況等について」（国税庁）

焼酎用・・・「課税移出数量」（国税庁）

米菓用、米穀粉用、加工米飯用、味噌用、包装もち用、その他用・・・「食品産業動態調査」（農林水産省）による生産量等

2 制度別の使用状況は、加工団体等からの聞き取りのほか、以下のデータにより推計。

主食用米・・・全国出荷団体等からの聞き取り。なお、酒造好適米は「酒造好適米の需要量調査」（農林水産省）等に基づく推計

加工用米・・・「需要に応じた米の生産・販売の推進に関する要領」（農林水産省）に基づく報告

新規需要米（米粉用米）・・・「米粉をめぐる状況について」（農林水産省）による利用量

MA米（SBS含む）・・・「販売実績」（農林水産省）

輸入米粉調製品・・・「貿易統計」（財務省）

特定米穀・・・1で推計した用途別原料米使用量から主食用米、加工用米、新規需要米（米粉用米）、MA米及び輸入米粉調製品を差し引いた数量

(3) 加工原材料用米穀の使用状況（推計）の推移

（単位：万玄米トン）

用 途	米穀 年度	主食用米	加工用米	新規需要米 (米粉用米)	特定米穀	MA米	輸入米粉調製品	うるち米計
清酒用	26	11 (8)	9		4			24 (8)
	27	12 (9)	10		3			25 (9)
	28	13 (10)	9		3			25 (10)
	29	12 (10)	9		3			24 (10)
	30	11 (9)	9		4			24 (9)
米菓用	26	1	1		5	3	2	12
	27	1	2		7	2	1	13
	28	1	2		6	3	1	12
	29	1	2		4	5	1	13
	30	1	1		5	5	2	13
加工米飯用 (無菌包装米飯除く)	26	5	5					10
	27	5	5					10
	28	5	5					10
	29	5	5					11
	30	5	6					11
味噌用	26		1		3	6		10
	27		1		7	1		9
	28		1		6	2		9
	29		1		2	7		10
	30		1		2	7		10
焼酎用 (泡盛含む)	26				6	3		9
	27		1		5	2		8
	28		2		4	2		8
	29		2		3	2		8
	30		2		3	2		7
米穀粉用	26		1	3	1	2	1	8
	27		1	2	2	2	1	8
	28		1	2	1	3	1	8
	29		1	2	1	2	1	8
	30		1	3	1	2	1	8
その他用	26	1			2	1		4
	27	1			2	1		4
	28	1	1		2	1		4
	29	1	1		1	1		4
	30	1	2		1	1		4
合 計	26	18	18	3	21	14	3	77
	27	18	22	2	24	9	2	77
	28	20	21	2	21	11	1	77
	29	19	22	2	15	18	2	78
	30	18	21	3	16	16	3	77

（単位：万玄米トン）

用 途	米穀 年度	主食用米	加工用米	新規需要米 (米粉用米)	特定米穀	MA米	輸入米粉調製品	もち米計
包装もち用	26	3	1			1	2	7
	27	3	2				2	7
	28	3	2				2	8
	29	3	3				1	8
	30	2	3				1	7
米菓用	26	2	1			1	2	6
	27	2	1		1	1	2	6
	28	1	2		1	1	1	6
	29	1	2		1	1	1	6
	30	1	2		1	1	1	6
米穀粉用	26	1					1	3
	27	1					1	3
	28	1	1				1	3
	29	1	1				1	3
	30	1	1				1	3
加工米飯用 (無菌包装米飯除く)	26							1
	27	1						1
	28	1						1
	29	1						1
	30	1						1
その他用	26						2	2
	27						1	2
	28						1	2
	29						1	2
	30						1	2
合 計	26	7	3		1	2	7	19
	27	7	4		1	1	6	19
	28	6	5		1	2	5	19
	29	6	6		1	2	5	19
	30	6	6		1	1	5	19

注1： 清酒用の（ ）書きは、酒造好適米で内数。

2： 加工米飯用は、レトルト米飯用、冷凍米飯用などとして使用される原料米の使用量であり、無菌包装米飯用として使用される原料米を含んでいない。

3： 焼酎は単式蒸留しょうちゅう（穀類又はいも類、これらの麴等及び水を原料として発酵させたアルコール含有物を単式蒸留機により蒸留したアルコール度数が45度以下のもの（酒税法第3条第10号））であり、泡盛用として使用される原料米を含んでいる。

4： その他用には、玄米茶用、みりん用、朝食シリアル用などがある。

5： 特定米穀とは、水稲収穫量調査で使用するふるい目1.7mmと農家が出荷の際に使用する1.75～1.9mmの間の「ふるい下米」と、1.7mm未満の小さな粒の米（一般的に「くず米」と呼ばれているもの）の総称。

6： ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

3 酒造好適米の需給状況

(1) 日本酒の出荷状況

- 日本酒の国内出荷量は、ピーク時（昭和48年）には170万klを超えていたが、他のアルコール飲料との競合などにより、近年は50万klを下回る水準まで減少。
- 消費者の志向が量から質へと変化していることから、国内出荷量全体に占める特定名称酒（吟醸酒、純米酒等）の割合は増加傾向で推移。
- また、輸出については、日本食ブーム等を背景に近年増加傾向で推移。ただし、令和元年の輸出量は減少に転じており、今後の動向に注視が必要。

日本酒の国内出荷量の推移

(千kl)

	10年	15年	20年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	元年	対前年比 元/30年
日本酒国内出荷量	1,133	871	659	580	566	555	540	533	495	467	94%
特定名称酒	291	221	174	164	167	173	178	179	171	165	96%
吟醸酒	34	30	20	21	24	25	24	24	23	22	96%
純米吟醸酒	25	26	24	29	32	37	42	45	45	45	100%
純米酒	62	54	57	58	59	62	65	67	64	62	97%
本醸造酒	169	111	73	56	52	49	46	43	38	35	92%

資料：日本酒造組合中央会調べ。年は暦年。

注1：清酒は、一般酒のほか、原料米及び製造方法などの諸条件（原料、精米歩留）により、吟醸酒、純米酒等8種類に分類され、これらを総称して「特定名称酒」という。

2：国内出荷量には輸出量は含まれていない。

日本酒の輸出量の推移

(千kl)

	10年	15年	20年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	元年	対前年比 元/30年
日本酒輸出量	8	8	12	16	16	18	20	23	26	25	97%
アメリカ合衆国	1	2	4	4	4	5	5	6	6	6	108%
中華人民共和国	0	0	0	1	1	2	2	3	4	5	124%
大韓民国	0	0	2	4	3	3	4	5	5	3	54%
台湾	4	2	2	2	2	2	2	2	2	2	100%
香港	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	92%
その他	2	2	3	4	4	5	5	6	6	6	105%

資料：「貿易統計」（財務省）。年は暦年。

(2) 日本酒原料米の使用状況

- 日本酒の原料米は、一般的に流通している米のほか、酒造りのために作られた特別な米である山田錦、五百万石などの「酒造好適米」が使用されている。
- 日本酒原料米の使用量は、近年、製品当たりの米の使用量が多い特定名称酒が増加していたため、24～25万トン程度で推移していたが、平成30年産は、特定名称酒も減少に転じたこと等から約23万トン（対前年比▲5%）に減少しており、今後の動向に注視が必要。

日本酒原料米の使用状況

(千トン)

	10年産	15年産	20年産	25年産	26年産	27年産	28年産	29年産	30年産	対前年比 30/29年
日本酒原料米	405	315	261	243	248	251	241	240	227	95%
酒造好適米	99	75	77	76	90	99	97	94	88	94%
加工用米	86	89	74	95	105	94	93	88	90	102%
その他	220	151	110	72	53	58	51	58	49	85%

資料：農林水産省による推計値。

(3) 酒造好適米の生産量

- 酒造好適米の生産量（農産物検査数量）については、平成26年産主食用米（うるち米）の取引価格の大幅下落等により、酒造好適米の生産へシフトしたこと等から、平成27年産において、需要を上回る生産量となった。
- 平成28年産以降は減少傾向にあるが、最近の日本酒出荷量の急減に伴い、酒造好適米の需要量も減少傾向にあり、供給過剰が続いている状況。

酒造好適米の生産量（農産物検査数量）の推移

(トン)

	10年産	15年産	20年産	25年産	26年産	27年産	28年産	29年産	30年産	元年産	対30年産比
酒造好適米	99,448	74,854	76,788	75,813	90,185	108,797	106,618	102,400	95,856	96,722	100.9%
山田錦	24,639	22,853	21,399	23,081	29,812	39,528	37,257	38,431	33,916	34,631	102.1%
五百万石	33,282	23,169	24,186	20,602	22,596	27,078	26,030	20,564	21,203	19,588	92.4%
美山錦	11,304	7,487	7,016	6,426	7,786	7,838	7,513	7,018	6,408	6,475	101.1%
雄町	2,502	1,827	1,780	1,700	2,312	2,886	2,481	2,873	2,723	2,932	107.7%
その他	27,721	19,518	22,407	24,004	27,679	31,467	33,337	33,514	31,607	33,096	104.7%

資料：「農産物検査結果」（農林水産省）

注：元年産は、令和2年3月31日現在の速報値を直近3カ年の3月31日現在の農産物検査の進捗率により確定値見合いに推計したもの。

(4) 酒造好適米の需要量

- 令和元年7月に実施した需要量調査によると、酒造好適米の需要量については、令和元年産は88～90千トン程度、令和2年産は87～89千トン程度と見込まれている。

（参考）令和元年度 酒造好適米等の需要量調査の概要

- 日本酒の全酒造メーカー（1,430社）を対象として、令和元年7月に酒造好適米等の購入実績及び将来の購入見込数量を調査。763社から回答があり、回答率は数量ベースの回答率は約82～84%と推計される。

酒造好適米等の需要量調査結果

(トン)

	29年産	30年産	元年産	2年産
		対29年産比	対29年産比	対29年産比
酒造好適米の需要量調査結果(実数)	77,719	72,905 93.8%	73,354 94.4%	73,013 93.9%
山田錦	32,148	28,682 89.2%	29,485 91.7%	29,044 90.3%
五百万石	16,191	15,365 94.9%	14,462 89.3%	14,403 89.0%
美山錦	5,058	4,734 93.6%	4,453 88.0%	4,406 87.1%
雄町	1,711	1,546 90.4%	1,560 91.2%	1,619 94.7%
その他	22,611	22,577 99.8%	23,395 103.5%	23,540 104.1%
酒造好適米の全体需要量(推計)	93～95千トン	87～89千トン	88～90千トン	87～89千トン

資料：「令和元年度 酒造好適米等の需要量調査結果」（農林水産省）

注1：「酒造好適米の需要量調査結果（実数）」は、令和元年度酒造好適米等の需要量調査において回答のあった酒造メーカーの需要量の積み上げの実数。

2：「酒造好適米の全体需要量（推計）」は、令和元年度酒造好適米等の需要量調査において回答のあった酒造メーカーの需要量が全体需要量の約82～84%と推計されるため、今回調査した各年産の需要量を当該割合で除することにより推計。

産地銘柄毎の需要量等の酒造好適米に関する詳細な情報は、以下URLの「日本酒をめぐる状況」及び「酒造好適米等の需要量調査結果等」を参照ください。

URL：http://www.maff.go.jp/j/seisaku_tokatu/kikaku/sake.html

4 飼料用米の需要量

- 畜産側の令和2年産に係る飼料用米の年間需要量は、約120万トン。
〔農林水産省生産局畜産部飼料課調べ〕
- ① 全農グループ飼料会社：約65万トン
- ② (協)日本飼料工業会組合員工場：約46万トン
- ③ 全国酪農業協同組合連合会：約1万トン
- ④ 日本養鶏連：約3万トン
- 畜産農家：約2万トン〔53件〕（新規需要量、令和2年4月現在の報告分。
追加情報は随時更新）
- 上記の地域別内訳、問い合わせ先は以下のとおり。

① 全農グループ飼料会社の飼料用米の使用可能数量（令和元年12月現在）

地区	年間使用 可能数量 (千トン)	備 考
北海道	58	ホクレンくみあい飼料
東北	199	J A全農北日本くみあい飼料
関東	122	J A東日本くみあい飼料・科学飼料研究所
北陸	21	J A東日本くみあい飼料
東海	32	//
近畿・中国	21	J A西日本くみあい飼料
四国	29	//
北九州	33	ジェイエイ北九州くみあい飼料
南九州	137	南日本くみあい飼料・科学飼料研究所
合 計	652	

(※) 使用可能数量は、製造工程・能力から試算した数量。
(※) MA米、備蓄米を含んだ場合の年間使用可能数量は、約820千トン。
(※) 畜種別の使用割合は、グループ内の飼料会社からの間取りをもとに、
養鶏約59%、養豚約31%、養牛約10%と推計。
(※) 実際の使用にあたっては、搬入方法等により制限される可能性がある。
(※) 四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある。

問い合わせ先：JA全農 畜産生産部麦類・副原料課 TEL:03-6271-8243

② 日本飼料工業会組合員の飼料用米需要量（令和元年12月現在）

地 区	需要量 (千トン：単年度)	備 考
北海道	20	
東北	142	
関東	107	
中部	47	
関西	54	
九州	90	
合 計	460	

(※) 輸入トウモロコシ価格以下であることが前提、価格水準により需要量は変動する。
(※) この他、MA米、備蓄米に対する需要が約26万トンあり、上記の需要量には、MA米、
備蓄米は含まない。
(※) 畜種別の使用割合は、組合員の一部の工場からの間取りのもとに、豚約35%、
ブロイラー約32%、採卵鶏約30%、乳用牛約2%、肉用牛約1%と推計。
(※) 四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある。

(協)日本飼料工業会は「飼料用米ダイヤル」を設置し、飼料用米を生産して売
りたい産地の生産者や集荷業者、JA、飼料用米を使用したい傘下の全国の飼料
メーカー(工場)との仲介を実施。

問い合わせ先：「飼料用米ダイヤル」TEL:03-3583-8031 E-mail:Esamai@jafma.or.jp

③ 全国酪農業協同組合連合会の飼料用米の使用可能数量（令和元年12月現在）

地 区	年間使用可能数量 もしくは需要量 (千トン)	備 考
北海道	9.8	政府所有米穀(MA米)使用
東北	2.0	政府所有米穀(備蓄米)と新規需要米併用
関東	1.2	政府所有米穀(備蓄米)と新規需要米併用
中部	0.4	新規需要米使用
関西	1.0	政府所有米穀(MA米)と新規需要米併用
九州	0.0	
合 計	14.4	

(※) 使用可能数量は、MA米、備蓄米を含み、製造工程・能力から試算した数量。
(※) 畜種別の使用割合は、30年度の使用実績では、乳用牛約85%、肉用牛約15%。
(※) 実際の使用にあたっては、搬入方法等によっては制限される可能性がある。
(※) 輸入トウモロコシ価格以下であることを前提とした需要量。
(※) 四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある。

問い合わせ先：全国酪農業協同組合連合会 購買生産指導部 TEL:03-5931-8007

④ 日本養鶏連の飼料用米の使用可能数量（令和元年12月現在）

地 区	年間使用可能数量 もしくは需要量 (千トン：単年度)	備 考
北海道	0.0	
東北	0.5	*粳米、不可
関東	1.0	
北陸	0.0	
東海	1.0	
近畿・中国	6.0	*粳米、不可
四国	0.0	
九州	26.0	*一部、粳米不可
合 計	34.5	

(※) 使用可能数量は、MA米、備蓄米を含み、製造工程・能力から試算した数量。
(※) 畜種別の使用割合は、30年度の使用実績では、採卵鶏約70%、ブロイラー約
25%、その他約5%。
(※) 実際の使用にあたっては、搬入方法等によっては制限される可能性がある。
(※) 輸入トウモロコシ価格以下であることを前提とした需要量。
(※) 四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある。

問い合わせ先：日本養鶏連 事業部 TEL:03-5296-7041

- 畜産農家の令和2年産飼料用米の新規需要量（令和2年4月現在）

都道府県	新規需要量		うち確保済み	
	件数	数量（トン）	件数	数量（トン）
岩手県	1	50	1	50
宮城県	1	3		
秋田県	2	74		
茨城県	3	101	1	50
千葉県	7	6,363	1	500
山梨県	7	318		
長野県	7	448	6	428
愛知県	2	220		
京都府	5	254		
奈良県	2	1,110		
鳥取県	3	2,420	3	1,920
広島県	1	300		
香川県	4	110		
福岡県	2	1,300		
佐賀県	1	4		
長崎県	2	20		
大分県	1	3,000		
宮崎県	2	未定		
合計	53	16,096	12	2,948

（※）供給先が確保されていない新たな需要及びマッチング状況について、都道府県から報告のあった件数・数量を記載（現在とりまとめ中の都道府県もあり）。

（※）追加の希望があれば随時更新。

（※）畜種別の使用割合は都道府県の報告から、肉用牛4件1,609トン、乳用牛7件2,192トン、豚11件3,371トン、採卵鶏28件8,811トン、ブロイラー2件92トン、その他で1件20トン。

（※）四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある。

問い合わせ先：生産局畜産部飼料課 TEL：03-3502-5993

飼料用米のマッチングの取組状況、配合飼料メーカーへの飼料用の供給等

飼料用米のマッチングの取組状況

- 畜産農家と耕種農家とのマッチングのための要望調査を実施したところ、令和2年産飼料用米について、畜産農家から約2万トン(53件)の希望が寄せられている。さらに、全農グループ飼料会社において約65万トン、日本飼料工業会において約46万トン(中・長期的には約200万トン)の需要があるなど、配合飼料メーカーからの要望もあり、農林水産省としてもこれらのマッチング活動を推進。
- 令和2年産飼料用米の生産・利用拡大に向けては、全国、地方ブロック、各県(地域)段階において推進体制を整備し、生産・流通・利用にかかる各種課題解決に向けた取組を総合的に推進。

令和2年産に係る飼料用米の需要量

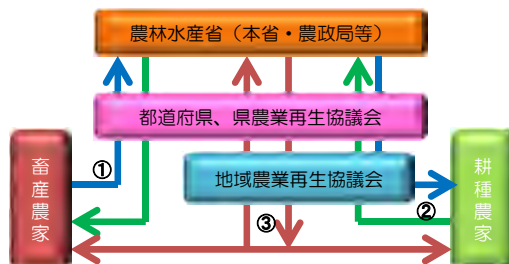
- ・ 畜産農家の新規需要量：約2万トン(53件)
(令和2年4月現在報告分)
- ・ 全農グループ飼料会社：年間約65万トン
(米使用可能数量約82万トンのうちMA米・備蓄米を含まない数量。)
- ・ (協)日本飼料工業会組合員工場：年間約46万トン
(米の需要量見込み約72万トンのうちMA米・備蓄米を含まない数量。
中長期的にみた需要量は約200万トン。)

飼料業界主要4団体の飼料用米生産拡大に向けたメッセージ (平成29年3月28日公表)

- ・ 飼料業界の主要4団体が、飼料用米の生産拡大に向け、飼料用米に取り組む生産者に対するメッセージをとりまとめ、公表。
- ・ 当面の飼料用米の使用可能数量は4団体で120万トン程度と十分に利用できる体制になっており、安心して飼料用米生産に取り組んでいただきたい旨が記載。

マッチング活動の取組体制

- ① 新たに飼料用米の供給を希望する畜産農家の連絡先や希望数量・価格等の取引条件を聞き取り、需要者情報としてとりまとめ、産地側(地域再生協・耕種農家等)へ提供
- ② 地域(再生協)における飼料用米の作付面積や数量を聞き取り、産地情報としてとりまとめ、利用側(畜産農家等)へ提供
- ③ 各関係機関が連携し、マッチング活動を推進



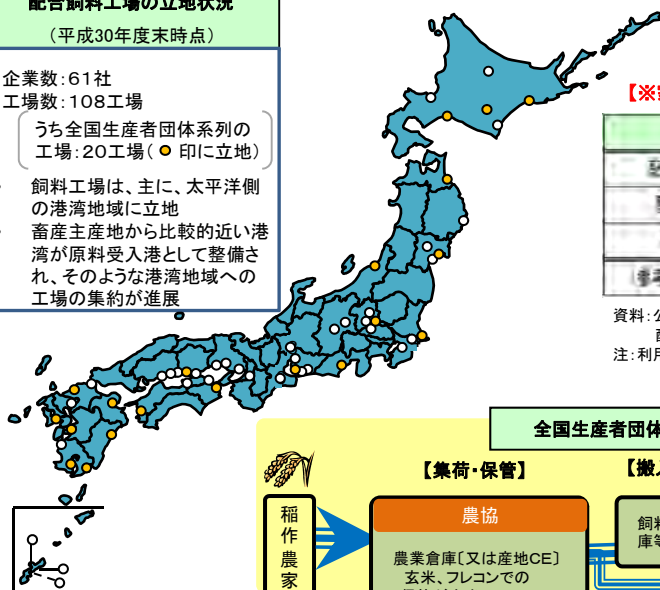
配合飼料メーカーへの飼料用米の供給について

- 耕種農家は、農協に出荷することで、自ら需要先の確保を図る必要がなく、飼料用米の生産に取組可能。
- 農協は、CEや耕種農家が乾燥した飼料用米を地域の農業倉庫等で保管。
- 農協と出荷契約を締結した全国団体は、飼料メーカーの要望に応じ、工場近くの営業倉庫等で開袋・バラ化作業を行い、工場に搬入。
- 飼料メーカーは、とうもろこしの代替として飼料用米を配合し、畜産農家に出荷(工場は、在庫として保有せず、計画的に受入・配合)。
- 飼料工場では、次の課題をクリアすれば、受入量の増加に対応可能。
 - ・ 配合飼料の主原料(とうもろこし等)と同等またはそれ以下の価格での供給
 - ・ 工場への長期的かつ計画的な供給と集荷・流通の円滑化(例えば、半年程度前から供給量の調整を行い、計画的に搬入)

配合飼料工場の立地状況

(平成30年度末時点)

- 企業数:61社
工場数:108工場
(うち全国生産者団体系列の工場:20工場(●印に立地))
- ・ 飼料工場は、主に、太平洋側の港湾地域に立地
 - ・ 畜産主産地から比較的近い港湾が原料受入港として整備され、そのような港湾地域への工場の集約が進展



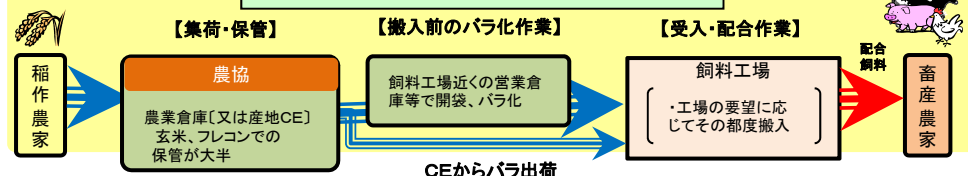
畜種別のコメの利用可能量(試算)

【※家畜の生理や畜産物に影響を与えることなく給与可能と見込まれる量】

畜種	豚	鶏	牛	馬	羊	合計
配合飼料生産量	340万	100万	304万	300万	162万	1,306万
配合可能割合	20%	50%	15%	10%	3%	
利用可能量	130万	150万	45万	30万	4万	459万
令和16年度産飼料用米	74万	25万	24万	17万	8万	98万

資料:公益社団法人配合飼料供給安定機構発行「飼料月報」より
配合可能割合は畜産栄養有識者からの聞き取り及び研究報告をもとに試算
注:利用可能量は、令和元年度(速報値)の配合飼料生産量に配合可能割合を乗じて算出。

全国生産者団体による飼料用米の集荷・流通体制



(参考情報) 令和2年産水稻の生育状況 (令和2年6月2日現在)

本資料は、地方自治体等ホームページにより公表された令和2年産水稻の生育状況等の一部を(公社)米穀機構情報部において取りまとめたものです。

各情報の詳細については、以下URL(公社)米穀機構ホームページの「出所(原資料)」を参照願います。
【 https://www.komenet.jp/komenetmanager/wp-content/uploads/200602_sakugara.pdf 】

作成: 公益社団法人米穀安定供給確保支援機構情報部

道府県	生育状況等	
	区分	育苗・田植進行状況・生育状況等(自治体等公表資料の抜粋)
		平年に対する遅速等
北海道	(生育)	【生育状況(6月1日現在)】 (全道) 移植作業は平年並に終了した。移植後の苗の活着は並。(北海道農政部 6月2日付) (空知) 生育は平年並であり、移植作業も平年並に終了した。(空知総合振興局 6月2日付) (石狩) 遅速は1日早い。低温、強風による葉の黄化や葉先枯れが見られる。(石狩振興局 6月2日付) (釧路) 生育は概ね平年並で推移、移植作業も概ね平年並で終了。(釧路振興局 6月2日付) (後志) 遅速は2日早い。(後志総合振興局 6月2日付) (日高) 移植後の低温・日照不足により、生育は遅れ気味である。(日高総合振興局 6月2日付) (上川) 生育は、平年並に推移している。(上川総合振興局 6月2日付) (留萌) 生育は平年並に進んでいる。(留萌振興局 6月2日付) (オホーツク) 移植作業は平年並に進んでいる。生育も平年並である。(オホーツク総合振興局 6月2日付)
青森	(田植)	・5月25日現在の田植進捗は、県全体で90%となっており、平年より12ポイント高かった。 県全体の田植最盛期は、平年より3日早い5月19日であった。 (東青) 77% (中南) 92% (西北) 98% (上北) 87% (下北) 50% (三八) 78% (青森県 5月26日付)
岩手	(田植)	・県全体の田植最盛期は平年並み ・5月19～22日頃の低温の影響で活着の遅れもみられたが、向こう1か月の予報では当面、気温は平年並～高く推移すると予想され、これに伴い生育も次第に回復していくと見込まれる。(岩手県 5月28日付)
宮城	(田植)	・5月21日現在の県全体の田植進捗率は90.1%で、全域において田植終期には至っていない。 ・5月中旬過ぎから、低温傾向にあるが田植作業はほぼ平年並みに推移している。(宮城県 5月22日付)
秋田	(田植)	(由利) 5月25日現在、田植え作業の進捗率は88.2%、直播播種作業の進捗率は100%。(6月1日付) (秋田) 田植えが盛期をむかえた。直播の播種作業はほぼ終了した。(5月22日付) (北秋田) 5月25日現在の田植えの進捗状況は78.4%(平年83.1%)、盛期(50%)は5月23日(平年5月22日)。(5月29日付) (仙北) 5月25日現在の管内の水稲移植作業進捗率は、進捗率70.0%(平年69.6%)。(5月29日付) (山本) 5月20日現在の田植え作業は34.9%が終了。5月19～20日の強風・低温により作業が進まなかったと思われる。(5月22日付) (雄勝) 5月18日が田植えの始期。平年よりも2日程度早まっている。(5月22日付) (平鹿) 田植え作業の盛期(進捗率50%)は平年より1日早い5月24日。(5月29日付) (鹿角) 5月15日現在、耕起作業の進捗率は98.4%(平年98.5%)、耕起作業の終期(進捗率95%)は、5月11日(平年5月11日)。また、田植え作業の進捗率は4.7%(平年2.6%)であり、直播作業の進捗率は45.0%(前年47.0%)。5月15日現在、耕起の進捗率は100%。田植えの進捗率は3.8%であり、始期(進捗率5%)は5月17日の見込み。(5月15日付) (秋田県農林政策課)
山形	(田植)	・「雪若丸」は順調に田植えが行われ、良好なスタートを切る。6月1日現在の生育は、草丈、葉数が前年並み、茎数が前年より少ない状況。(山形「つや姫」「雪若丸」ブランド化戦略推進本部ほか 6月1日付) ・平坦部「はえぬぎ」の6月1日現在の生育は、草丈は平年並み、茎数は平年よりやや少なく、葉数は平年並み。(山形おいしさ際立つ!米づくりプロジェクト本部 6月1日付) (最上) 管内の移植作業は、平年よりやや早い進捗となっている。(最上総合支庁農業技術普及課 5月19日付)
福島	(田植)	・移植栽培の播種作業は、始期(5%終了)が4月8日(平年差-1日)、盛期(50%終了)が4月16日(平年差±0日)、終期(95%終了)が4月25日(平年差±0日)で平年並。苗の生育は概ね順調で、病害の発生は平年並。 4月下旬より田植えが始まっている。(福島県農林水産部農業振興課 5月8日現在)
茨城		【水稻の生育状況(5月27日現在、龍ヶ崎市の)】 (4月24日移植・対平年遅速) 「あきたこまち」1日遅い、「ふくまる」1日遅い、「コシヒカリ」3日遅い。 (5月7日移植・対平年遅速) 「あきたこまち」3日遅い、「コシヒカリ」3日遅い。 (茨城県農業総合センター農業研究所 6月1日付)
栃木	(生育)	【5月25日本田における生育調査】 (1) コシヒカリ ・草丈は25.1cm(平年比98%)、茎数は163.2本/m²(平年比116%)と平年より多いが、現地調査ほ場では分けつの発生がみられないところがある。 ・葉齢は4.9葉で平年より0.3葉少なく、葉色は3.2で平年より0.5濃い。 ・葉色×茎数値は522で平年比99%となっているが、茎数確保が遅れている現地調査ほ場は300以下と生育量が少なくなっている。 (2) とちぎの星・草丈は25.4cm(平年比98%)、茎数は173.2本/m²(平年比98%)とほぼ平年並みとなっている。 ・葉齢は4.9葉で平年より0.5葉少なく、葉色は3.5で平年より0.5濃い。 ・葉色×茎数値は(606で平年比86%)で生育量が少なくなっている。(栃木県 5月26日付)
千葉	(生育)	【5月20日現在】 ・3月～4月初めは気温が高く、苗の生育は進んだが、4月中旬以降、気温が低く推移したため、移植はやや遅れた。 - その後、5月は気温・日照ともに高くなり、生育は平年並みに推移し、順調に分けつが始まっている。 ・移植後に強風・低温の影響を受けたほ場では、生育の遅れがみられる。 - また、一部のほ場では、藻類や還元障害の発生がみられる。(千葉県 5月22日付)

道府県	生育状況等	
	区分	育苗・田植進行状況・生育状況等（自治体等公表資料の抜粋）
		平年に対する遅速等
新潟	（生育）	（新発田）【新発田管内のコシヒカリ生育状況】 ・田植え後は気温が概ね平年並みに推移し生育は順調。（新発田農業普及指導センター 6月2日付）（十日町） ・管内の田植は盛期が5月21日（平年差－2日）。田植後の気温は平年並で活着も並。（十日町農業普及指導センターほか 6月1日付） （上越東）【生育概況（平坦地のコシヒカリ 6/1現在）】 ・田植え後の活着は並、田植え後の低温、日照不足の影響で分けつ発生は緩慢。 ・葉数の進んだ苗が移植されたことから葉数（生育の進み）は指標値に比べ早くなっている。（上越東農林事務所 6月1日付） （新潟）【生育調査結果（6月1日調査）】（コシヒカリ、こしいぶき、新之助） ・初期生育は順調。今後は高温が予想され、生育は早まる見通し（新潟農業普及指導センター 6月1日付） （岩 船）・コシヒカリを中心とした田植盛期は5月12日頃。 ・5月前半の気象は高温とやや低温の日があり、寒暖差が大きく、生育は平坦地では平年並。 ・山間地など田植が遅れたところでは、生育は遅れている。（村上農業普及指導センターほか 5月29日付）
富山	（生育）	【本田での生育状況】 （てんたかく）・平年に比べ、草丈は並み、茎数はかなり多く、葉齢は0.5 葉多くなっている。 （コシヒカリ）・平年に比べ、草丈は短く、茎数はやや多く、葉齢は並みである。 （てんこもり）・平年に比べ、草丈は並み、茎数はかなり多く、葉齢は並みである （富富富）・近年に比べ、草丈は短く、茎数は少なく、葉齢は0.3 葉少なくなっている。（富山県 5月26日付）
石川	（生育）	【本田の生育】 1. 草丈 ・コシヒカリは平年比82～131%（県平均105%：加賀：104%、能登：108%）、と平年と比べやや長く前年並。 ・ゆめみづほは、平年比87～115%（県平均：101%、加賀：100%、能登：104%）と平年並で前年と比べやや短い。 ・ひゃくまん穀は、近年比89～116%（県平均：98%、加賀：92%、能登105%）と近年並で前年と比べやや短い。 2. 茎数 ・コシヒカリは平年比61～167%（県平均：110%、加賀：108%、能登114%）と平年と比べ多く、前年と比べ少ない。 ・ゆめみづほは、平年比80～155%（県平均：104%、加賀：108%、能登：94%）と平年並で前年と比べ少ない。 ・ひゃくまん穀は、近年比99%～170%（県平均：94%、加賀：88%、能登：101%）と近年と比べやや少なく、前年と比べ少ない。（石川県農林総合研究センター 5月28日調査）
福井	（生育）	【5月28日調査】 ・葉色が出てきているが、移植栽培では平年に比べ葉色が薄く、茎数はやや少ない。（水田農業レベルアップ委員会技術普及部会 5月28日付）
長野	（育苗・田植）	・育苗は、5月上旬から気温が高く推移したことから、一部で高温によるヤケが発生したものの、全般に大きな問題はなかった。 ・田植えは5月10日から開始。最盛期は5月24日頃と推測され、平年より3日、前年より1日早い状況（北信農業農村支援センター 5月25日）
岡山	（生育）	・中北部地帯の田植時期、生育概況は概ね平年並である。（岡山県 5月28日付）
高知	（生育）	【5月11日時点の生育状況】 ・4月6日移植苗、4月14日移植苗ともに、移植後の低温および4月13～14日の強風による植傷み（葉身の黄化）がみられ、生育が停滞したが、その後回復傾向にある。 【南国そだち】（4月6日植・稚苗） 平年に比べ、茎数は少ないが、草丈と葉齢は平年並みで推移している。 【よさ恋美人】（4月6日植・稚苗） 前年に比べ、草丈はやや低く、茎数は少なめで推移している。 【コシヒカリ】（4月6日植・稚苗） 平年に比べ、茎数はやや少ないが、草丈と葉齢は平年並みで推移している。 【コシヒカリ】（4月14日植・稚苗） 平年に比べ、茎数は少ないが、葉齢は平年よりやや遅れている。（高知県農業技術センター 5月15日付）
福岡	（田植・生育）	（1）早生水稻（夢つくし、ヒノカリ） 田植えは平年並で、5月15日までに終了（最盛期は4月下旬）。田植後の4月中下旬の低温の影響で、葉先の傷み等がみられたが、5月上旬からの高温で生育は回復している。 （2）普通期水稻（夢つくし、元気つくし、ヒノカリなど） 6月上中旬植えの播種及び育苗作業が行われており、苗の生育は順調。出穂期以降の高温による品質低下を防ぐため、「夢つくし」の田植えは6月上中旬、「ヒノカリ」は6月下旬を中心に行われる見込み。「元気つくし」の田植えは6月中下旬の見込み。（福岡県農林業総合試験場 5月15日付）
宮崎	（生育）	【作物の生育状況（5月中旬）】・早期水稻は分けつ期（宮崎県病害虫防除・肥料検査センター 5月22日）

別冊「資料編」では、より詳細な情報をご覧ください。

－ 別冊「資料編」の目次 －

I 米の在庫情報

- 1 平成29・30年産の産地別民間在庫の推移(うるち米)(速報)

在庫 1

Excel

II 米の契約・販売情報

- 1 産地別事前契約数量(累計、うるち米、平成26～29年産)
2 平成29・30年産米の産地別契約・販売状況(累計、うるち米)(速報)
3 備蓄米の買入入札の結果(落札実績)(平成23年産～令和2年産)

契約 1

Excel

契約 3

Excel

契約 15

III 米の価格情報

- 1 米の相対取引価格の推移(通年平均価格)
2 米の現物市場の状況

価格 1

Excel

価格 4

IV 支援事業等

- (1) 水田活用の直接支払交付金
(2) 畑作物の直接支払交付金(ゲタ対策)
(3) 米・畑作物の収入減少影響緩和交付金(ナラシ対策)
(4) 収入保険
(5) 主食用米の需給安定の考え方、米穀周年供給・需要拡大支援事業
(6) コメ海外市場拡大戦略プロジェクト

支援 1

支援 6

支援 8

支援 10

支援 12

支援 14

V その他

- (1) 水稻うるち玄米の農産物検査結果
(2) 麦・大豆の需要情報
① 令和2年産麦の産地別銘柄別入札結果
② 令和元年産大豆の産地別銘柄別入札結果
(3) 野菜等の需給情報
(4) 令和元年産水稻の収穫量
(5) 水稻作付面積及び収穫量等の年次別推移(全国)
(6) 水稻玄米のふるい目幅別重量分布状況、
10a 当たり収量及び収穫量(子実用)の年次別推移(全国)
(7) 年産・都道府県別主食用米の作付面積及び収穫量等の推移

検査 1

麦 1

大豆 1

野菜 1

統計 1

統計 6

統計 6

統計 8



○米に関する各種情報は「米に関するメールマガジン」でも毎月発信中です。登録方法は下記URLを参照ください。
<http://www.maff.go.jp/j/pr/e-mag/index.html>